



# 東北学院大学

## 2025年度前期

# 学修行動と学生生活に関する実態調査

## 調査結果報告

### 2025年 12月

東北学院大学  
高等教育開発室  
学長室政策支援IR課

# 2025年度前期 学修行動と学生生活に関する実態調査についての概要

## ■ 本調査の目的

- ① 前期の学修行動と学生生活の振り返りを行い、後期授業に対する学習意欲を高める。  
東北学院大学としてその変化を測定する。
- ② この調査を既存の調査とも合わせることで、学修活動の変遷を探る継続的なモニタリングを行い、学修成果向上に向けた取り組みへの提言を行う。
- ③ 文部科学省 令和7年度(2025年度)「全国学生調査(本格実施)」の調査項目も設問項目に含め、文部科学省へ提出する回答データを収集する。

## ■ 調査方法

Web回答形式(Googleアカウントにより学生番号取得)

## ■ 主管部署

学長室政策支援IR課

## ■ 調査設問

### 1. 基本情報

Q.1 居住区分

### 2. 学修行動に関する調査

Q.2 あなたの授業に関する予習復習の1日あたりの平均的な学習時間を1つ選んでください。

Q.3 あなたの授業以外の学習(資格取得等)に関する平均的な1日あたりの学習時間を1つ選んでください。

Q.3\_1 授業以外の学習の具体的な目的(資格名)を回答してください。

Q.4 授業以外で最もよく利用する学習場所を1つ選んでください。

Q.5 前期中に図書館を何回程度利用しましたか。あてはまる項目を1つ選んでください。

Q.6 前期中にラーニングコモンズを何回程度利用しましたか。あてはまる項目を1つ選んでください。

Q.7 少人数で行われる演習形式もしくは実験実習・卒業研究の授業を履修していますか。あてはまる項目を1つ選んでください。

### 3. 学修成果に関する調査

Q.8 あなたは今後、社会で活躍するために次のような能力・知識が必要だと考えますか。

Q.9 専門的な知識や技能を身につけるための体系的なカリキュラムだと思いますか。

### 4. 学生生活に関する調査

Q.10 あなたは学生生活が充実していると感じていますか。あてはまる項目を1つ選んでください。

Q.11 部活・サークル等に加入していますか。最も多く参加している項目を1つ選んでください。

Q.12 アルバイトはしていますか。あてはまる項目を1つ選んでください。

Q.13 朝食を食べていますか。あてはまる項目を1つ選んでください。

### 5. 東北学院大学に対する評価

Q.14 東北学院大学を表す最初にイメージする言葉を1つ選んでください。

Q.15 あなたは高校生に東北学院大学への進学を勧めたいと思いますか。

Q.16 東北学院大学での学びに対する満足度についてご回答ください。

### 6. 文部科学省 全国学生調査の調査項目(※1)

Q.17 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

Q.18 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は①を選択してください。

Q.19 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

Q.20 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いましたか。

Q.21 今年度前期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

Q.21\_1 授業への出席(実験・実習、オンライン授業を含む)

Q.21\_2 卒業論文・卒業研究・卒業制作

Q.21\_3 予習・復習・課題など授業に関する学習(卒業論文等は除く)

Q.21\_4 授業と直接関係しない自主的な学習

Q.21\_5 部活動／サークル活動

Q.21\_6 アルバイト／定職

### 7. 大学礼拝に関する調査

Q.22 東北学院大学では週3日程度礼拝に出席することを推奨しています。2025年度前期は大学礼拝にどの程度出席しましたか。

Q.23 大学礼拝に行く理由は何ですか。(複数選択可)

Q.23\_1 他に大学礼拝に行く理由や目的があれば、具体的にお答えください。(50字程度まで)(自由回答)

Q.24 礼拝にどれくらい満足していますか。

Q.25 大学礼拝に出席していない理由は何ですか。(複数選択可)

Q.25\_1 他に大学礼拝に出席しない理由があれば、具体的にお答えください。(50字程度まで)(自由回答)

Q.26 大学礼拝にはどのようなことを期待していますか。(複数選択可)

Q.27 大学礼拝に関して、改善したほうが良い点があればお答えください。(50字程度まで)(自由回答)

### 8. 前期の振り返りに関する調査

Q.28 2025年度前期を振り返って、学習時間や勉強に対する取組で良かった点を記入してください。

Q.29 2025年度前期を振り返って、後期に向けて学習時間や学習意欲に関して、自分自身で改善したい点があれば記入してください。

Q.30 2025年度前期を振り返って、履修登録及びキャンパス移動等に関して、困った点はありますか。

Q.31 「はい」と回答したうち、最も困った点を選んでください。

Q.31\_1 上記の具体的な内容を記入してください(自由回答) (※2)

### 9. 生成AIに関する調査

Q.32 生成AIを使用したことありますか。

Q.33 使用したことがある生成AIを選択してください。(複数選択可)

Q.34 使用したことのある主な理由は何ですか。(複数選択可)

Q.35 生成AIを使用したことがあるあなたにとって、生成AIは以下のうちどのようないい存在ですか。(複数選択可)

Q.36 生成AIを利用しない主な理由は何ですか。(複数選択可)

Q.37 生成AIの情報や生成物(文章、画像、コード等)をどの程度信頼していますか。

Q.38 Q.37を選択した理由を回答してください。(50字程度まで)(自由回答) (※2)

Q.39 生成AI技術について、もっと学びたいと思いますか。

Q.40 将来、生成AIを使用する目的は変化していくと思いますか。

※1：本学では前期分調査の回答データを令和7年度全国学生調査の結果として提出予定。

※2：網掛け部分は公開対象外のため載せておりません。

※ 調査実施年度により設問Noが異なるため、経年変化については設問文のみで編集しています。

※ 回答者の特定を防ぐため、集計人数が若干名の場合は非表示等で対応する場合あり。

#### ※ 回答スコアについて

アンケートの各回答に割り当てた数値のこと。例えば否定から肯定まで1~4の数値を割り当てている(肯定的な値ほど高い数値)。

回答スコアの平均は、回答スコアの合計を回答者の数で割った値。

回答スコアが高いほど評価が良いとされる。

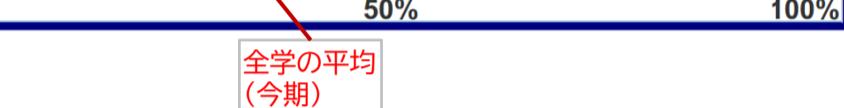
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 回答率

### ◆ 経年変化

#### 全学年／学年別

年度	期	学生計	回答者数	回答率
2021	前期	11,040人	3,831人	34.7%
	後期	10,979人	4,234人	38.6%
2022	前期	11,026人	3,719人	33.7%
	後期	10,936人	3,459人	31.6%
2023	前期	11,082人	3,312人	29.9%
	後期	10,979人	3,097人	28.2%
2024	前期	11,338人	4,246人	37.4%
	後期	11,264人	3,662人	32.5%
2025	前期	11,504人	4,078人	35.4%
				
<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">全学の平均 (今期)</span>				
				

今期の回答率は35.4%だった

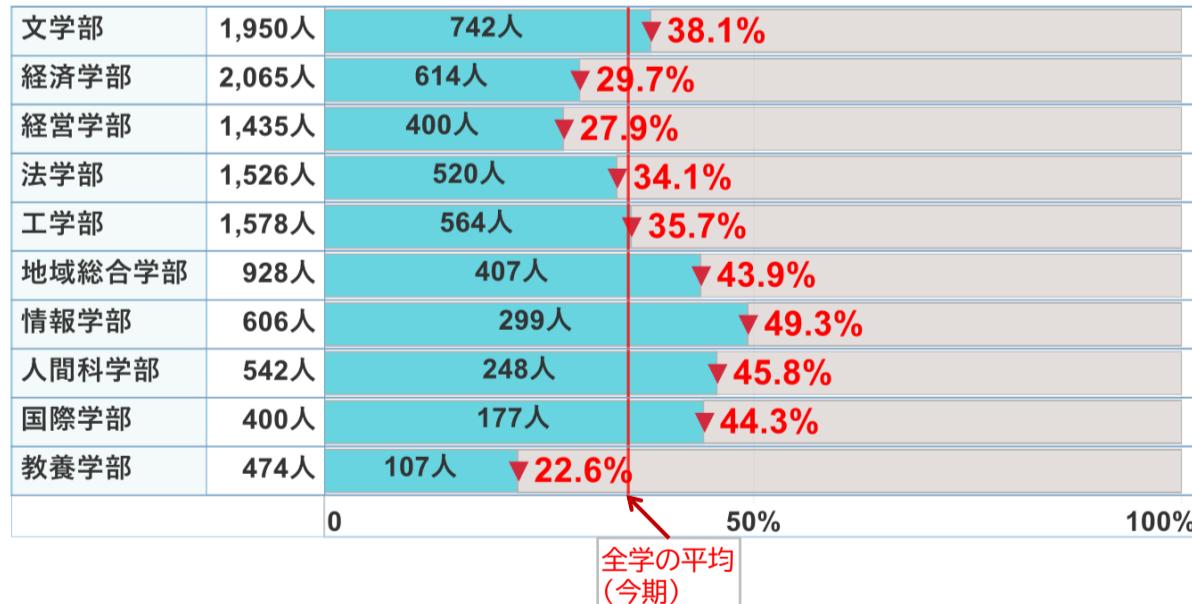
過去5年では3番目に高い回答率だった。  
(前期のみの比較では、昨年(2024年度)について2番目)

今期から学生向けにアンケートを周知するポータルシステムの変更があったが、学年別では特に大きな影響はなかった。実施期間が約一ヶ月と長かった事、教員からの声掛けがあった事などにより、学生からの協力が得られたと考えられる。

#### 学年別

年度	期	1年生		2年生		3年生		4年生	
		(在籍者数)	回答者数／回答率	(在籍者数)	回答者数／回答率	(在籍者数)	回答者数／回答率	(在籍者数)	回答者数／回答率
2021	前期	(n=2,730)	1,100人 40.3%	(n=2,744)	1,107人 40.3%	(n=2,746)	865人 31.5%	(n=2,820)	759人 26.9%
	後期	(n=2,729)	1,300人 47.6%	(n=2,735)	1,231人 45.0%	(n=2,735)	849人 31.0%	(n=2,780)	854人 30.7%
2022	前期	(n=2,769)	1,222人 44.1%	(n=2,778)	1,036人 37.3%	(n=2,691)	816人 30.3%	(n=2,788)	645人 23.1%
	後期	(n=2,756)	1,146人 41.6%	(n=2,767)	865人 31.3%	(n=2,674)	589人 22.0%	(n=2,739)	859人 31.4%
2023	前期	(n=2,843)	1,246人 43.8%	(n=2,786)	911人 32.7%	(n=2,742)	612人 22.3%	(n=2,711)	543人 20.0%
	後期	(n=2,814)	1,051人 37.3%	(n=2,769)	812人 29.3%	(n=2,732)	521人 19.1%	(n=2,664)	713人 26.8%
2024	前期	(n=2,972)	1,677人 56.4%	(n=2,874)	1,101人 38.3%	(n=2,716)	811人 29.9%	(n=2,776)	657人 23.7%
	後期	(n=2,962)	1,364人 46.0%	(n=2,861)	937人 32.8%	(n=2,707)	612人 22.6%	(n=2,734)	749人 27.4%
2025	前期	(n=2,925)	1,391人 47.6%	(n=3,012)	1,232人 40.9%	(n=2,782)	820人 29.5%	(n=2,785)	635人 22.8%
									
									

### ◆ 今期 (学部別)

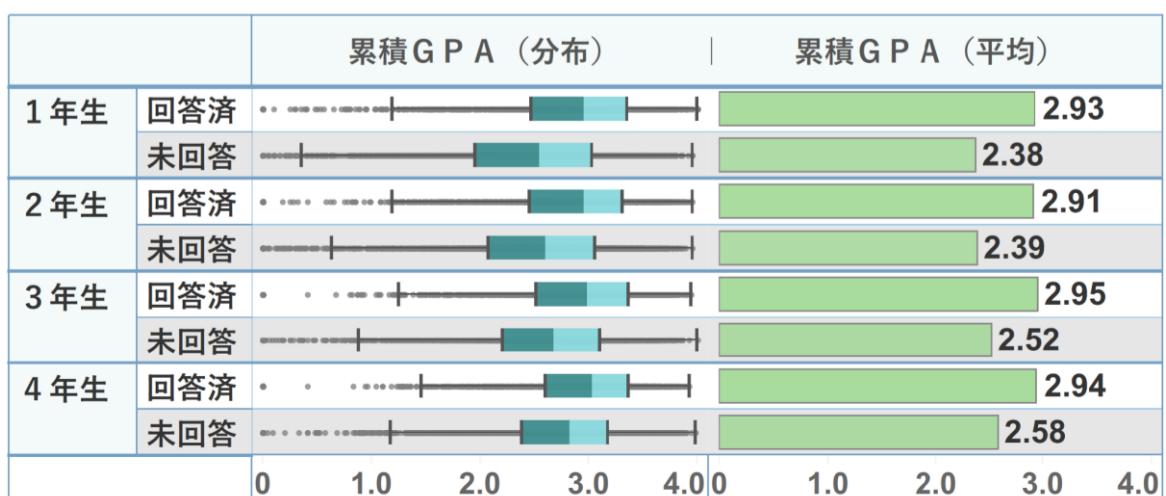
学部	学生数	回答者数	回答率
文学部	1,950人	742人	38.1%
経済学部	2,065人	614人	29.7%
経営学部	1,435人	400人	27.9%
法学部	1,526人	520人	34.1%
工学部	1,578人	564人	35.7%
地域総合学部	928人	407人	43.9%
情報学部	606人	299人	49.3%
人間科学部	542人	248人	45.8%
国際学部	400人	177人	44.3%
教養学部	474人	107人	22.6%
			
			

回答率が4割を超えた学部が  
いくつか見られた

回答率が4割以上だった学部は下記の通り(回答率が高い順)

- 情報学部
- 人間科学部
- 国際学部
- 地域総合学部

## ■ 累積GPA (回答／未回答別)



アンケート回答者の方が通算GPAが高い

どの学年でも、例年、アンケート回答者の方が累積GPAが高い傾向がある。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 満足度調査

### ◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)

Q.9 専門的な知識や技能を身につけるための体系的なカリキュラムだと思いますか。

年度	期	学年別	回答者数	満足度（割合）		回答スコア（平均）	
2021	前期	全学年	3,831人	35.2%	56.0%	3.25	
	後期	全学年	4,234人	34.3%	56.5%		
2022	前期	全学年	3,719人	62.1%	54.3%	2.91	
	後期	全学年	3,459人	37.5%	54.3%		
2023	前期	全学年	3,310人	40.0%	53.6%	3.33	
	後期	全学年	3,097人	39.9%	54.3%		
2024	前期	全学年	4,246人	42.3%	52.9%	3.37	
	後期	全学年	3,662人	39.5%	55.4%		
2025	前期	全学年	4,078人	39.3%	55.1%	3.33	
2025	前期	1年生	1,391人	42.4%	53.1%		
	2年生	1,232人	38.6%	56.2%	3.33		
	3年生	820人	38.4%	54.5%			
	4年生	635人	34.8%	58.1%			
				0	50% 100%	0 1.0 2.0 3.0 4.0	

■ 4\_そう思う  
■ 3\_どちらかといえばそう思う  
■ 2\_どちらかといえばそう思わない  
■ 1\_まったく思わない

回答スコアは昨年度前期と比較して0.4減少した

回答スコアは年次が上がるにつれ若干低下傾向である。

Q.10 あなたは学生生活が充実していると感じていますか。

年度	期	学年別	回答者数	満足度（割合）		回答スコア（平均）	
2021	前期	全学年	3,831人	43.9%	28.3%	2.63	
	後期	全学年	4,234人	45.9%	24.3%		
2022	前期	全学年	3,719人	49.3%	51.3%	2.85	
	後期	全学年	3,459人	32.8%	51.5%		
2023	前期	全学年	3,310人	30.8%	53.1%	3.11	
	後期	全学年	3,097人	33.2%	51.5%		
2024	前期	全学年	4,246人	36.2%	52.3%	3.22	
	後期	全学年	3,662人	38.3%	50.4%		
2025	前期	全学年	4,078人	36.0%	53.3%	3.23	
2025	前期	1年生	1,391人	36.4%	52.6%		
	2年生	1,232人	35.1%	54.1%	3.22		
	3年生	820人	37.0%	52.2%			
	4年生	635人	35.4%	54.8%			
				0	50% 100%	0 1.0 2.0 3.0 4.0	

■ 4\_充実している  
■ 3\_どちらかといえば充実している  
■ 2\_どちらかといえば充実していない  
■ 1\_充実していない

回答スコアは昨年度後期と比較して若干減少した

年次別でも大きな差は見られなかった。

Q.15 あなたは高校生に東北学院大学への入学を勧めたいと思いますか。

年度	期	学年別	回答者数	満足度（割合）		回答スコア（平均）	
2021	前期	全学年	3,831人	67.9%	54.3%	2.86	
	後期	全学年	4,234人	67.1%	54.3%		
2022	前期	全学年	3,710人	67.7%	54.3%	2.87	
	後期	全学年	3,459人	67.0%	54.3%		
2023	前期	全学年	3,310人	67.4%	54.3%	2.97	
	後期	全学年	3,097人	67.8%	54.3%		
2024	前期	全学年	4,246人	67.8%	54.3%	3.00	
	後期	全学年	3,662人	68.1%	54.3%		
2025	前期	全学年	4,078人	68.7%	54.3%	2.98	
2025	前期	1年生	1,391人	69.7%	54.3%		
	2年生	1,232人	67.8%	54.3%	2.95		
	3年生	820人	67.0%	54.3%			
	4年生	635人	70.2%	54.3%			
				0	50% 100%	0 1.0 2.0 3.0 4.0	

■ 4\_とても勧めたい  
■ 3\_どちらかといえば勧めたい  
■ 2\_どちらかといえば勧めたくない  
■ 1\_勧めたくない

回答スコアは昨年度は3.0以上だったが、今期は3.0を切る結果となった

回答スコアは、年次が上がるにつれ、若干上昇傾向である。

Q.16 東北学院大学での学びに対する満足度についてご回答ください。

年度	期	学年別	回答者数	満足度（割合）		回答スコア（平均）	
2021	前期	全学年	3,831人	73.0%	54.3%	2.90	
	後期	全学年	4,234人	72.2%	54.3%		
2022	前期	全学年	3,710人	74.5%	54.3%	2.95	
	後期	全学年	3,459人	73.3%	54.3%		
2023	前期	全学年	3,310人	75.8%	54.3%	3.04	
	後期	全学年	3,097人	74.2%	54.3%		
2024	前期	全学年	4,246人	74.8%	54.3%	3.08	
	後期	全学年	3,662人	74.2%	54.3%		
2025	前期	全学年	4,078人	75.5%	54.3%	3.08	
2025	前期	1年生	1,391人	76.4%	54.3%		
	2年生	1,232人	76.1%	54.3%	3.06		
	3年生	820人	75.0%	54.3%			
	4年生	635人	73.1%	54.3%			
				0	50% 100%	0 1.0 2.0 3.0 4.0	

■ 4\_大変満足  
■ 3\_満足  
■ 2\_不満  
■ 1\_大変不満

回答スコアは昨年度後期と比較して若干減少した

回答スコアは、年次が上がるにつれ、若干上昇傾向である。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

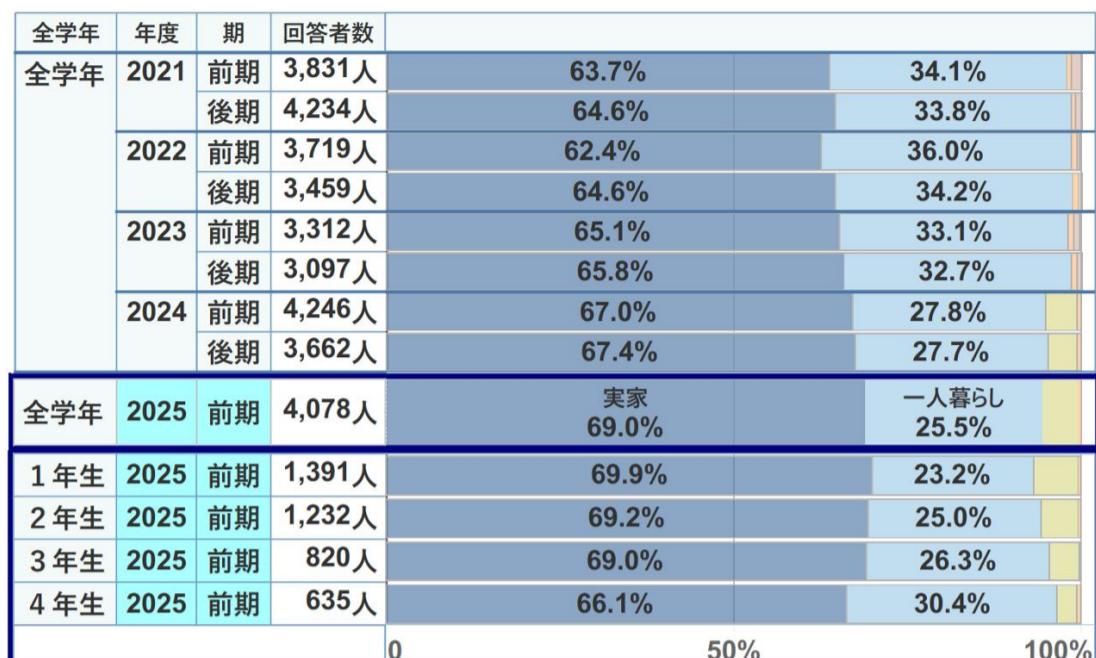
2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 1. 基本情報

### Q.1 居住形態

※ 2024年度より、選択肢に「学生寮・学生会館」を追加した。

#### ◆ 経年変化(全学年) / 本期(学年別)



実家から通学する学生の割合が年々上昇傾向である

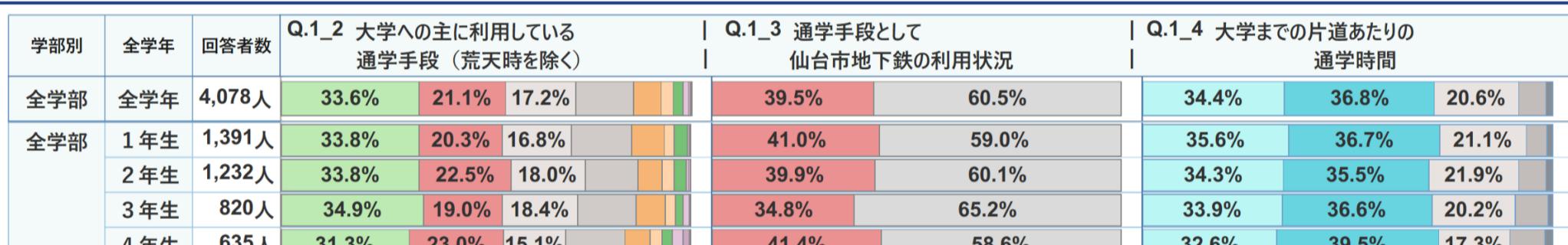
年次が上がるにつれ、実家や学生寮・学生会館の割合が減少し、一人暮らしの割合が増加する傾向がある。

- 実家
- 一人暮らし
- 学生寮・学生会館
- 下宿（シェアハウス含む）
- 寄宿舎
- 学内部活動の寮もしくは合宿所

### Q.1\_2 大学までの通学時間、Q.1\_3 仙台市地下鉄利用状況、Q.1\_4 片道あたりの通学時間

※ 今回からの追加設問

#### ◆ 本期 (全学年／学年別)



JR(在来線)  
仙台市地下鉄  
徒歩  
自転車  
路線バス

高速バス  
新幹線  
バイク  
自家用車  
その他

地下鉄を利用している  
利用していない

30分未満  
30分～1時間  
1時間～1時間30分  
1時間30分～2時間  
2時間以上

通学時にJR(在来線)を利用する学生は約1/3

日常的に仙台市地下鉄を利用している学生は約4割

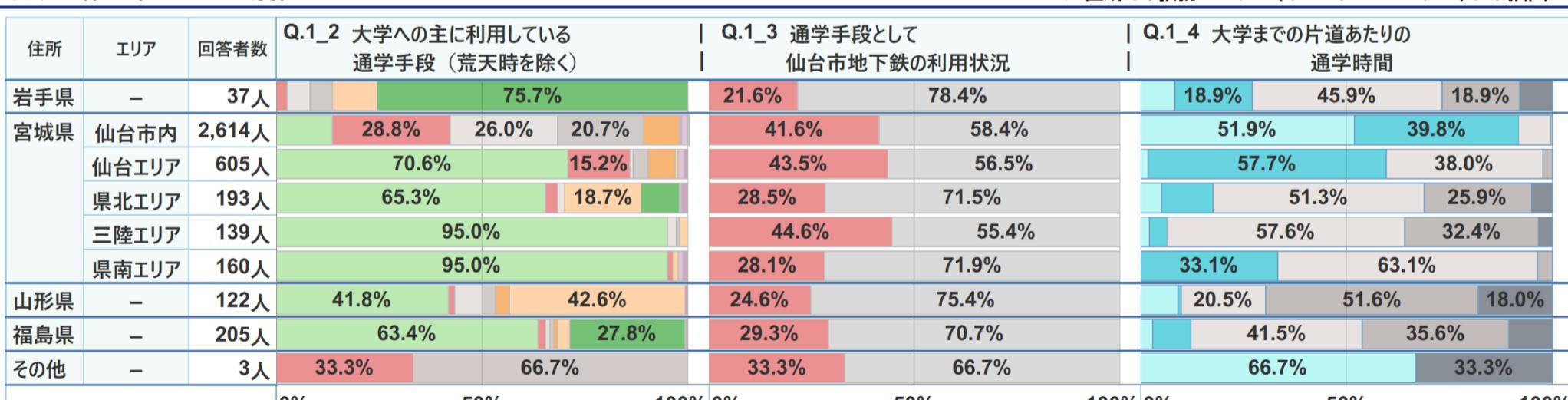
通学時間が1時間以内の学生は、約7割

地下鉄、徒歩、自転車は、合計で6割弱。

一方で、通学時間が2時間以上の学生が1.5%程度いる。

#### ◆ 本期 (住所／エリア別)

※ 住所は、教務システム(GAKUENシステム)より抽出



JR(在来線)  
仙台市地下鉄  
徒歩  
自転車  
路線バス

高速バス  
新幹線  
バイク  
自家用車  
その他

地下鉄を利用している  
利用していない

30分未満  
30分～1時間  
1時間～1時間30分  
1時間30分～2時間  
2時間以上

※ 現在の住所に関する設問が無かったため、一部整合性が合わない回答があったが、未加工のまま集計している。

居住地域により、通学手段に大きな差が見られた

仙台市地下鉄の利用頻度は、居住地域により差が見られる

仙台市内からの通学時間は、9割が1時間以内

宮城県(仙台市以外)、山形、福島ではJRが多い。県外からの通学者では高速バスや新幹線の割合が高い。

仙台市内、仙台エリア、三陸エリアからの通学者は、特に仙台市地下鉄を日常的に利用する学生が多く見られる。

一方で、県外からの通学者では通学時間2時間以上の回答が1～2割程度見られた。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

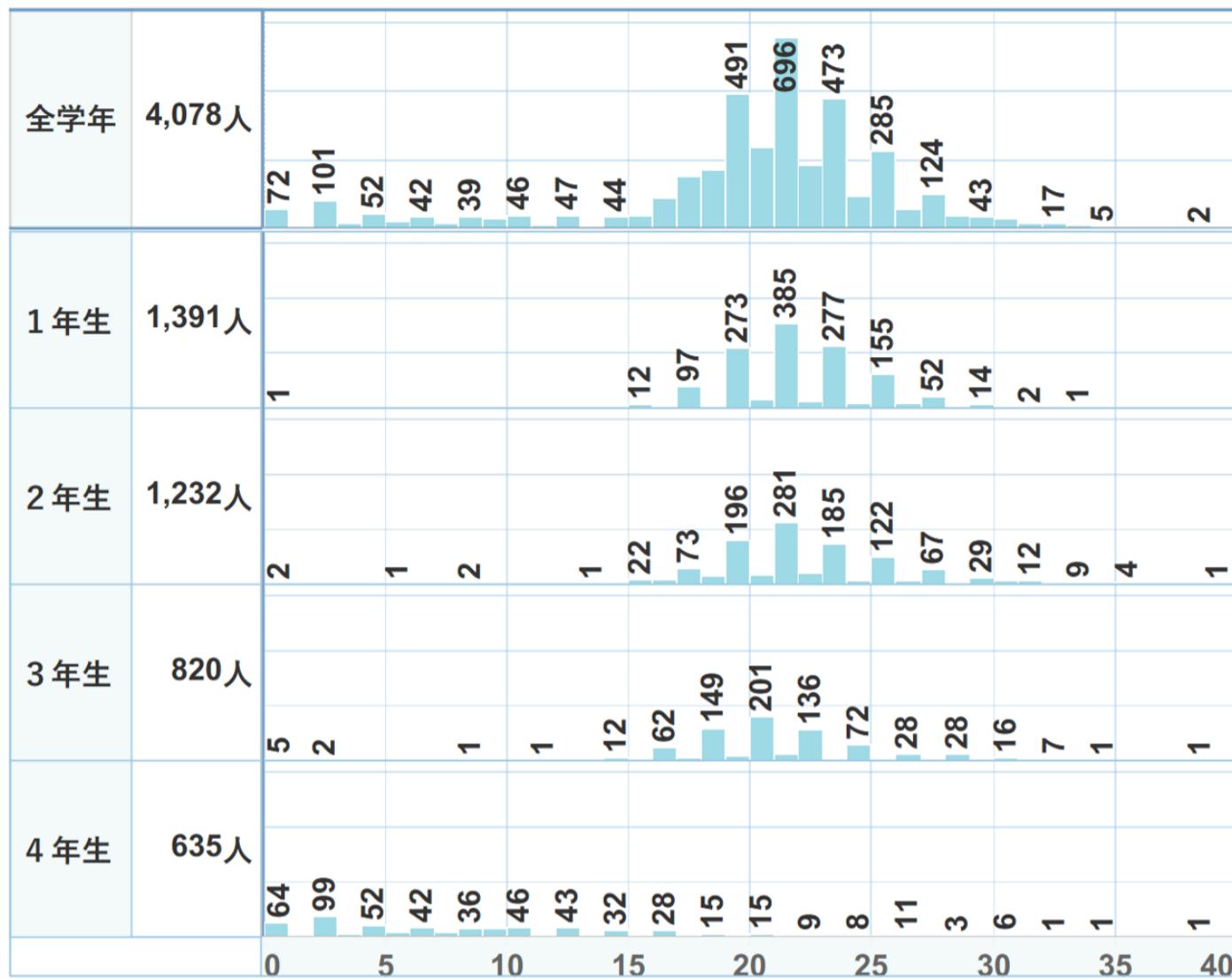


## ■ 履修／修得単位

※ 資格科目を含む  
※ 教務システム(GAKUEN)より、回答者についてデータを抽出

### 履修単位数

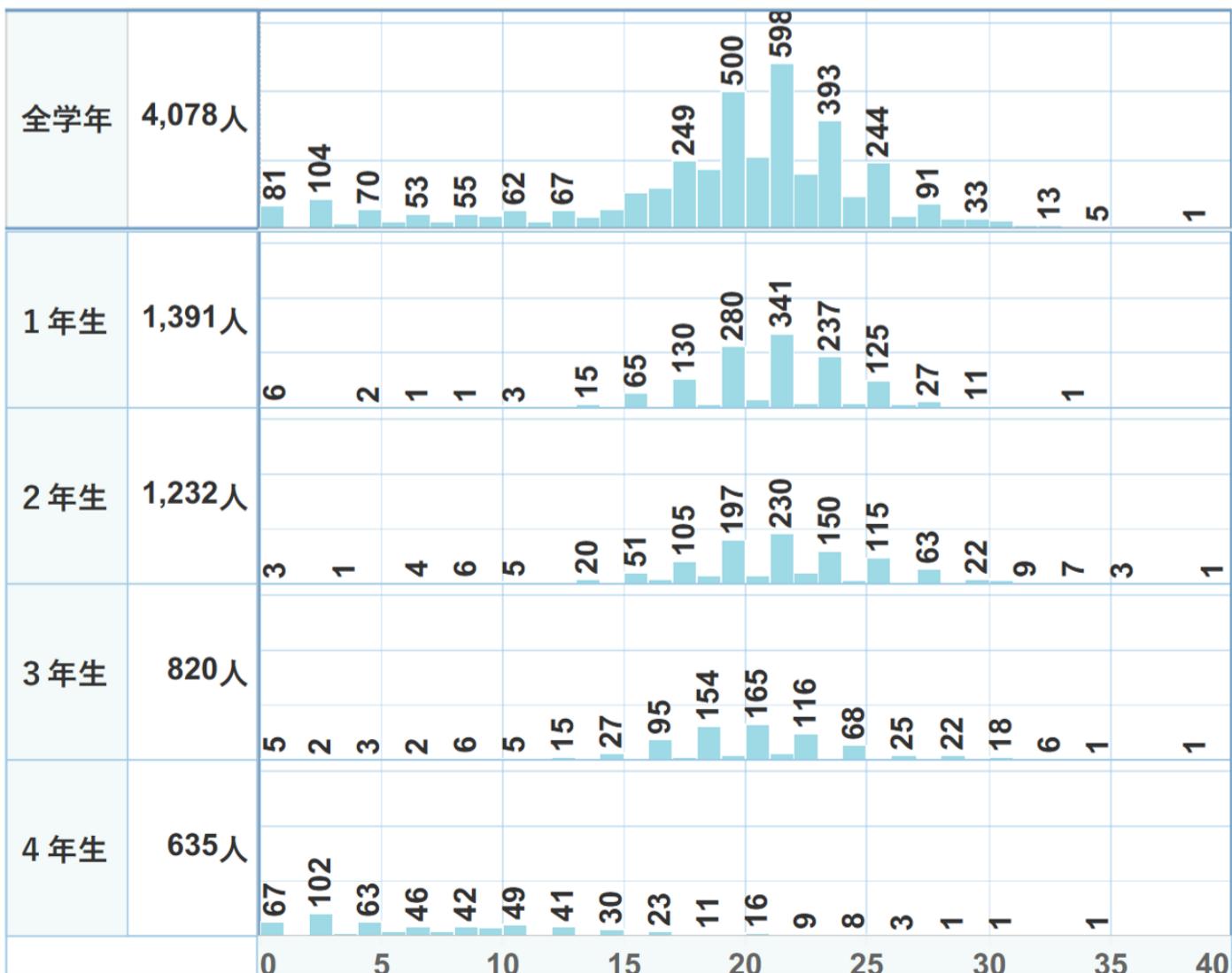
#### ◆ 今期 (全学年／学年別)



履修単位数は20~24、  
またはその前後に  
集中している

### 修得単位数

#### ◆ 今期 (全学年／学年別)



修得単位数は18~24、  
またはその前後に  
集中している。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 2. 学修行動に関する調査

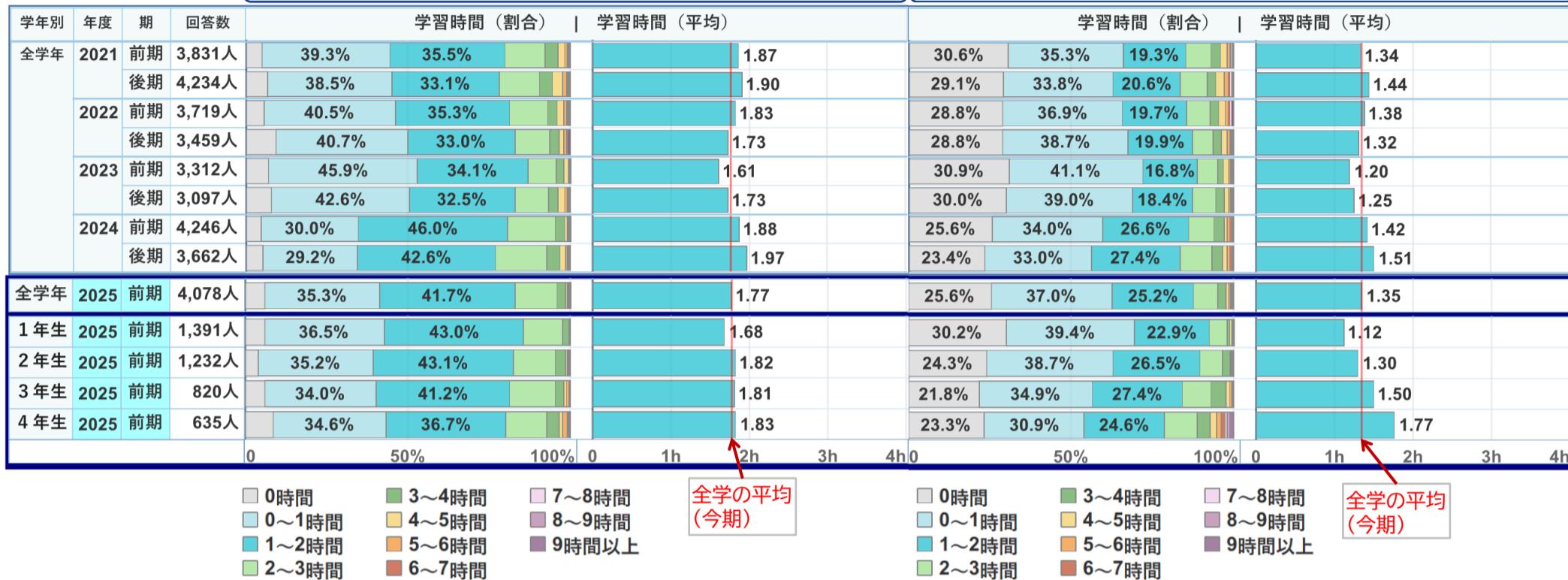
Q.2 授業に関する予習復習時間(※)、Q.3 授業以外の学習時間(※)

※ 一日あたりの学習時間

◆ 経年変化(全学年) / 本期(学年別)

Q.2 授業に関する予習復習時間

Q.3 授業以外の学習時間



授業に関する予習復習時間、授業以外の学習時間とも、昨年度と比較して若干減少した

授業以外の学習時間は、年次が上がるにつれ増加傾向がある。

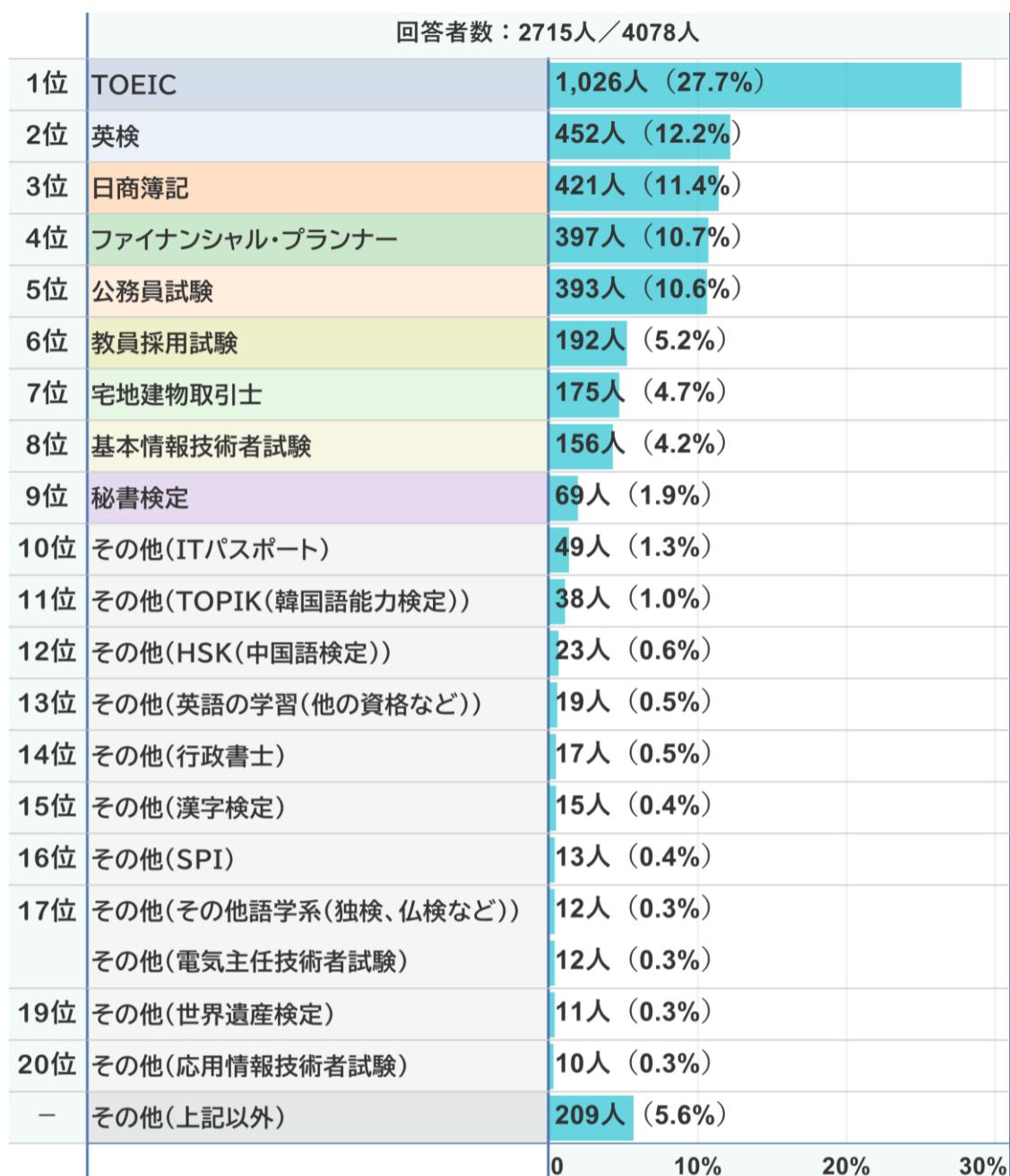
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 2. 学修行動に関する調査

### Q.3\_1 授業以外の学習の具体的な目的(資格名)

◆ 今期 (全学年でのランキング)



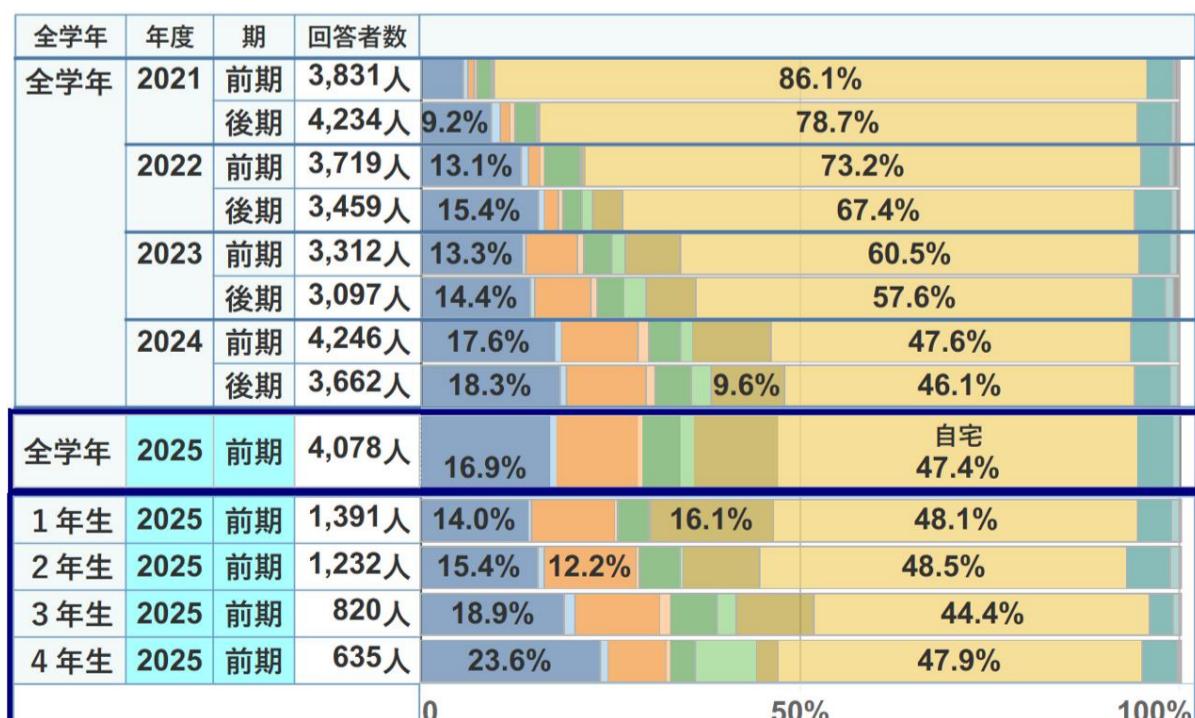
アンケート回答者のうち、約2／3の学生が何らかの資格取得を目指している

TOEICと回答した学生は、全学生の約1／4。

その他の内訳には趣味の分野など多彩な資格が見られた。  
※回答者10名未満の資格は「その他(上記以外)」に分類

### Q. 4 授業以外の学習場所

◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)



- 東北学院大学図書館
- 東北学院大学以外の図書館
- 東北学院大学ラーニングコモンズ
- 東北学院大学情報処理センター
- 東北学院大学内の教室
- 東北学院大学内の研究室
- 東北学院大学内の学食及びラウンジ
- 自宅
- カフェ等の飲食店
- 通学中の交通機関
- その他の場所
- レンタル自習室

昨年度並み 特に大きな変化はなかった

学年別では、自宅を選択した学生は48%前後で、3年生のみやや低い。

東北学院大学図書館の利用者は、年次が上がるにつれ増加傾向である。

東北学院大学ラーニングコモンズは、特に1～3年生の利用割合が高い。

東北学院大学内の学食及びラウンジを学習場所として利用する学生の割合は、1年生が16%程度と高く、2年生や3年生は10%程度に低下している。

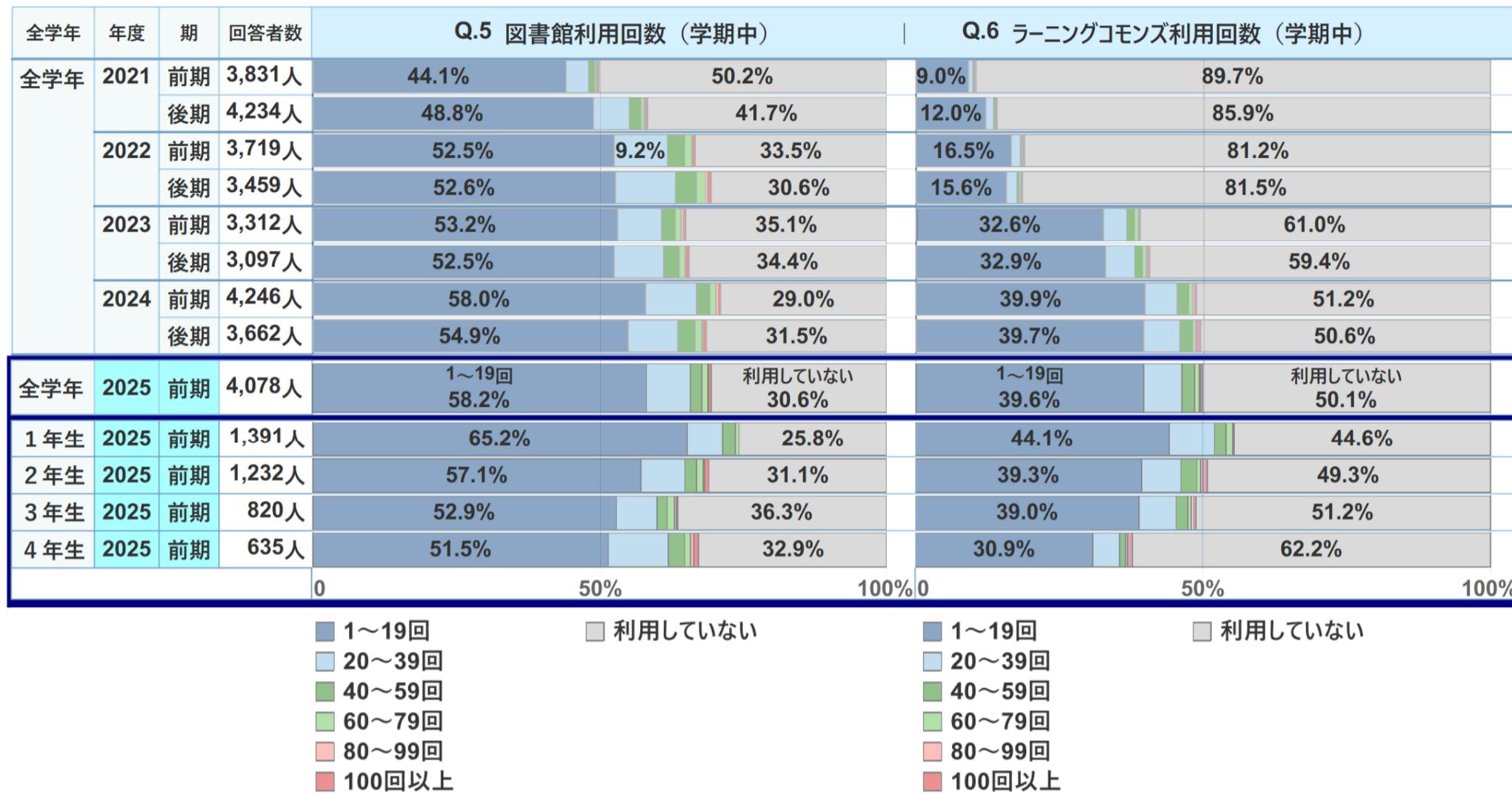
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 2. 学修行動に関する調査

### Q.5 図書館利用回数、Q.6 ラーニングコモンズ利用回数

#### ◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)



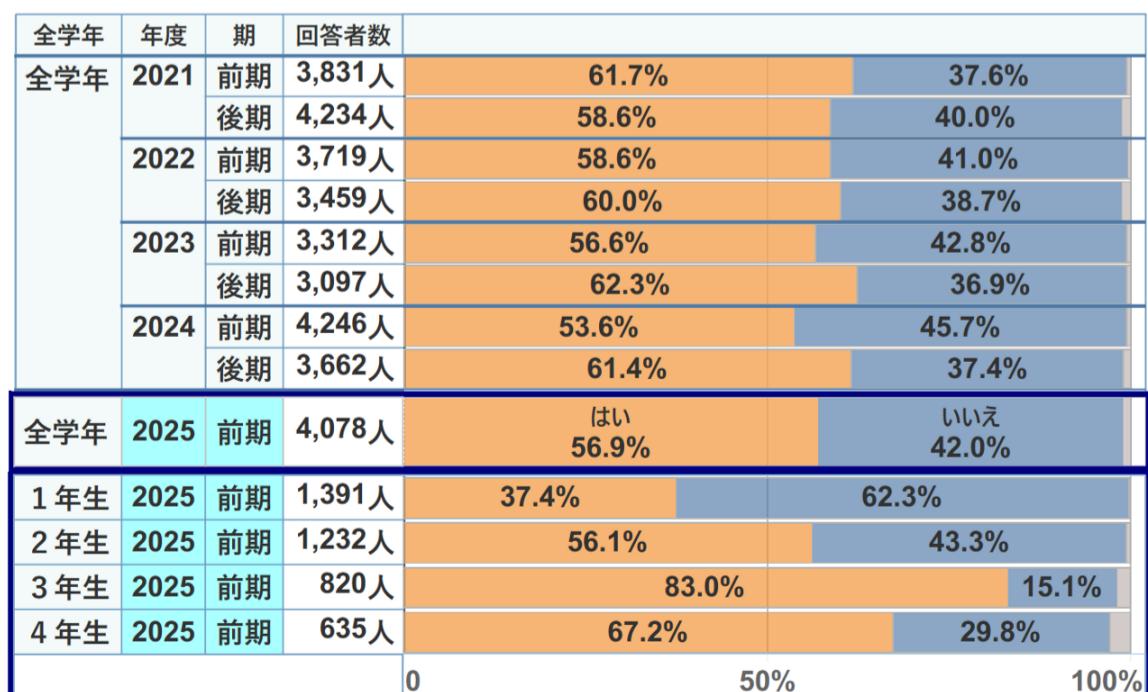
#### 図書館、ラーニングコモンズとも、利用回数は昨年並みだった

どちらも利用者の割合は1年生が一番多い。2年生から4年生では頻繁に活用する学生も見られた。  
(今期の自由回答(※)では図書館を活用しているとの回答が複数あり)

※ 設問「Q.28 2025年度前期を振り返って、学習時間や勉強に対する取組で良かった点を記入してください。」での回答

### Q.7 少人数で行われる演習形式の授業履修状況

#### ◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)



#### 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

少人数で行われる演習形式の授業履修状況は、3年生の割合が8割以上と一番高かった。

■ はい  
■ いいえ  
■ 履修したが途中で放棄した

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 3. 学修成果に関する調査

Q. 8 社会で活躍するため必要と考えている能力・知識

※ 項目ごとに必要度合いについて回答  
→平均をランキング形式で集計した

◆ 今期 (全学年／学年別)

※: 数値は回答スコア(平均)

	全学年		1年生		2年生		3年生		4年生	
	4,078人	1,391人	1,232人	820人	635人					
1位	コミュニケーション力	3.80	コミュニケーション力	3.82	コミュニケーション力	3.78	コミュニケーション力	3.79	コミュニケーション力	3.79
2位	課題発見・解決力	3.71	課題発見・解決力	3.75	論理的思考力	3.70	課題発見・解決力	3.70	協働力	3.69
3位	協働力	3.70	協働力	3.74	課題発見・解決力	3.70	論理的思考力	3.70	論理的思考力	3.67
4位	論理的思考力	3.70	幅広い知識・教養	3.72	協働力	3.68	協働力	3.69	課題発見・解決力	3.66
5位	幅広い知識・教養	3.67	論理的思考力	3.71	幅広い知識・教養	3.67	プレゼンテーション力	3.63	幅広い知識・教養	3.64
6位	実践力	3.65	実践力	3.70	プレゼンテーション力	3.67	幅広い知識・教養	3.62	実践力	3.60
7位	プレゼンテーション力	3.64	プレゼンテーション力	3.68	実践力	3.66	実践力	3.61	発想力	3.56
8位	発想力	3.62	発想力	3.66	文章力	3.63	文章力	3.58	文章力	3.56
9位	文章力	3.61	文章力	3.64	発想力	3.62	発想力	3.57	人脈形成力	3.53
10位	人脈形成力	3.57	人脈形成力	3.60	人脈形成力	3.59	人脈形成力	3.54	プレゼンテーション力	3.52
11位	専門的な知識や技能	3.52	専門的な知識や技能	3.59	専門的な知識や技能	3.54	数的思考力	3.48	数的思考力	3.48
12位	統率力	3.49	統率力	3.53	統率力	3.50	統率力	3.47	専門的な知識や技能	3.45
13位	数的思考力	3.48	数的思考力	3.48	数的思考力	3.48	専門的な知識や技能	3.45	統率力	3.43
14位	地域力	3.35	地域力	3.38	地域力	3.36	地域力	3.35	地域力	3.26
15位	外国語によるコミュニケーション力	3.21	外国語によるコミュニケーション力	3.31	外国語によるコミュニケーション力	3.26	外国語によるコミュニケーション力	3.08	外国語によるコミュニケーション力	3.07

全学年とも、回答スコアは「コミュニケーション能力」が高い数値だった

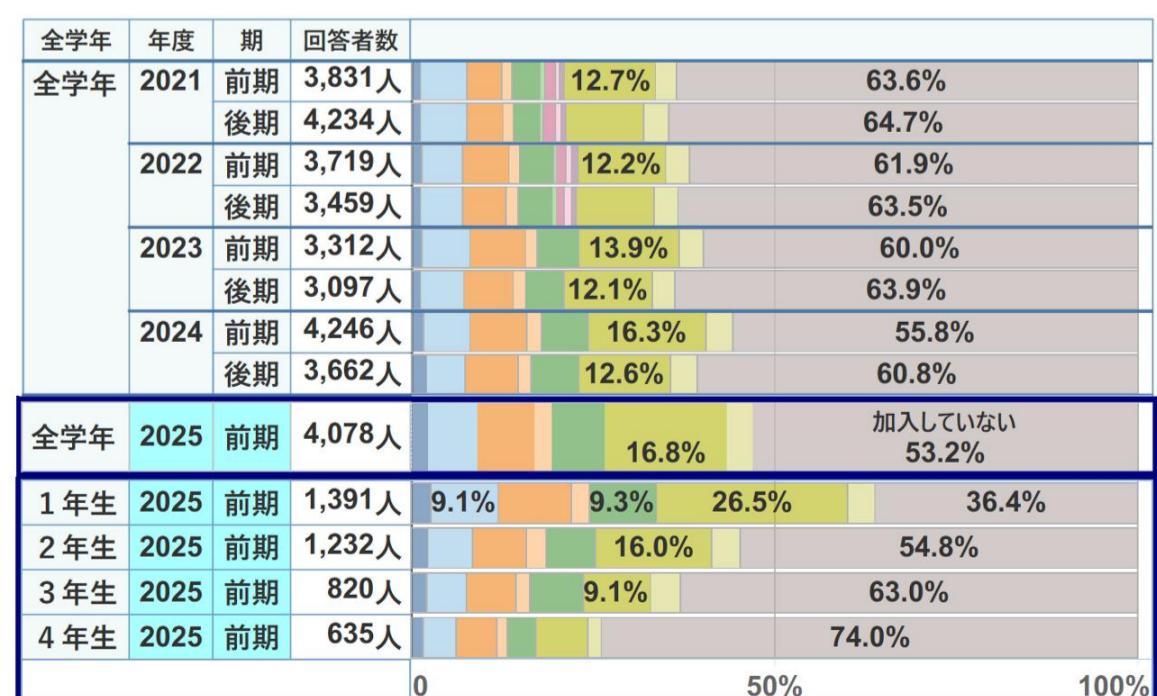
上位の項目に大きな差は見られなかった。

「外国語によるコミュニケーション能力」は、各学年とも低い数値だった。

## ■ 4. 学生活に関する調査

Q. 11 参加している部活・サークル名

◆ 今期 (全学年／学年別)



回答者のうち、約半数の学生が何らかの部活やサークルに参加している

前期の参加率は上昇傾向である  
(2021年度前期より10%増加)

1年生の約2/3、2年生の約半数が参加している。

- 東北学院大学学生会総合役員会
- 東北学院大学学生会体育会
- 東北学院大学学生会文化団体連合会
- 東北学院大学学生会クラブ連合会
- 東北学院大学学生会その他公認団体
- 学外学生団体・サークル
- 上記以外の団体
- 加入していない

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

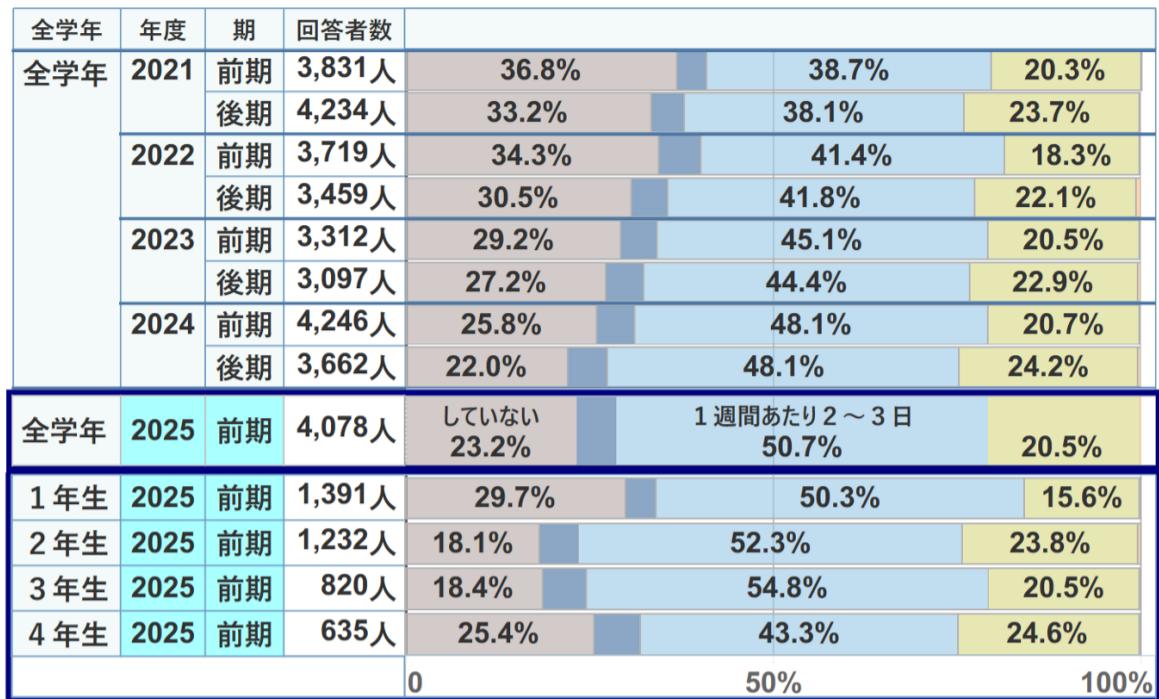
2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 4. 学生生活に関する調査

Q.12 アルバイトはしていますか

### ◆ 経年変化 (全学年／学年別)



約3／4の学生が、何らかのアルバイトに従事している

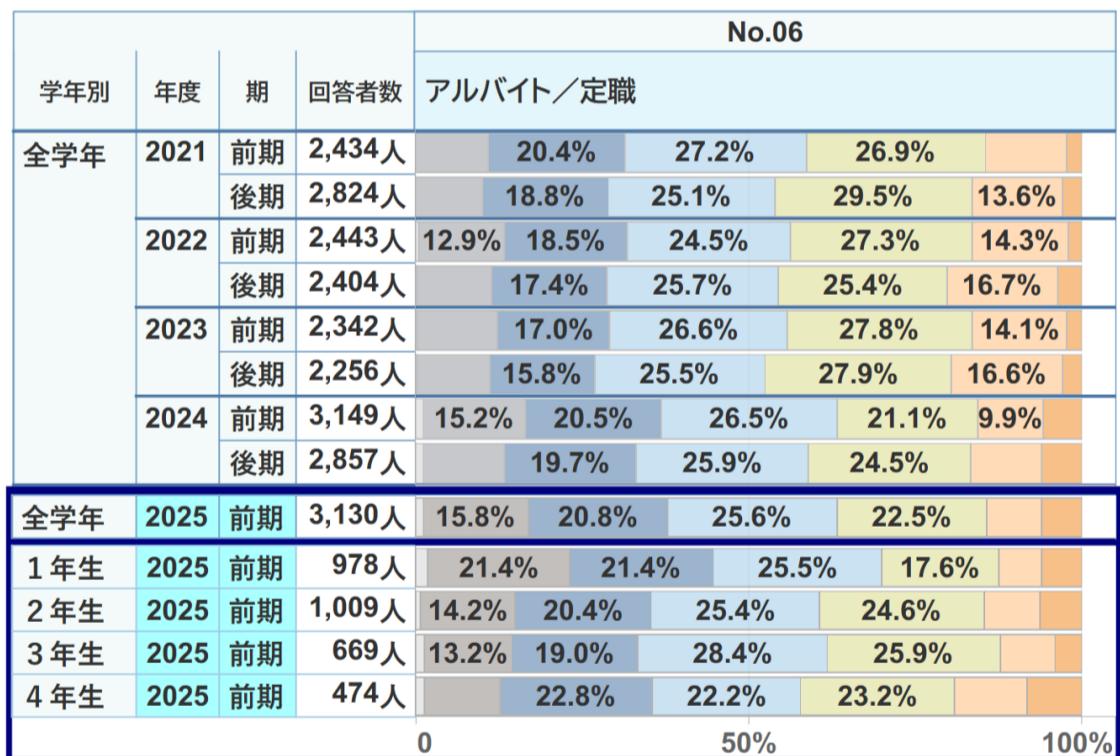
アルバイト従事率は年々上昇している。

1年生のうち約7割、2・3年生の約8割が何らかのアルバイトに従事している。

- していない
- 1週間あたり1日している
- 1週間あたり2～3日している
- 1週間あたり4～6日している
- 1週間あたり7日している

Q.21\_6 1週間のうちアルバイトに従事している時間

### ◆ 経年変化 (全学年／学年別)



昨年度並み 特に大きな変化はなかった

1年生は、アルバイト従事時間は2～4年生と比較して少ない傾向がある。

4年生は、アルバイト従事時間が21時間以上の学生の割合が1～3年生と比較して若干高い傾向がある。

- 1時間未満
- 1-5時間
- 6-10時間
- 11-15時間
- 16-20時間
- 21-30時間
- 31時間以上

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 4. 学生生活に関する調査

Q.13 朝食を食べていますか

◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)

全学年	年度	期	回答者数					
全学年	2021	前期	3,831人	46.6%	14.5%	14.3%	13.8%	
		後期	4,234人	46.8%	14.3%	13.7%	15.1%	
2022		前期	3,719人	49.8%	11.8%	13.7%	11.8%	12.9%
		後期	3,459人	47.5%	14.4%	12.1%	15.2%	
2023		前期	3,312人	51.7%	12.9%	13.1%		12.1%
		後期	3,097人	49.3%	14.2%			14.1%
2024		前期	4,246人	51.9%	12.7%	13.0%		11.8%
		後期	3,662人	49.8%	13.2%	13.8%		12.6%
全学年	2025	前期	4,078人	毎日食べている 50.6%	13.6%	13.9%		11.9%
1年生	2025	前期	1,391人	57.4%	13.6%	12.4%		
2年生	2025	前期	1,232人	49.5%	14.3%	13.8%		11.3%
3年生	2025	前期	820人	46.0%	13.0%	14.6%	12.1%	14.3%
4年生	2025	前期	635人	43.5%	12.8%	16.1%		17.2%
			0	50%				100%

### 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

朝食をとっている割合は、昨年度までは上昇傾向だったが、今期は昨年度並みだった。

1年生の6割弱が朝食を毎日とっている。年次が上がるにつれ、朝食の摂取頻度が減少する傾向がある。

- 毎日食べている
- 週に5~6回食べている
- 週に3~4回食べている
- 週に1~2回食べている
- 食べていない

## ■ 5. 東北学院大学に対する評価

Q.14 東北学院大学を表す最初にイメージする言葉

◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)

全学年	年度	期	回答者数					
全学年	2021	前期	3,831人	22.9%	24.8%	13.4%	1.5%	31.8%
		後期	4,234人	21.6%	30.0%	13.2%	1.5%	28.6%
2022		前期	3,719人	21.2%	38.7%	11.8%	1.5%	26.5%
		後期	3,459人	18.5%	38.3%	11.8%	1.5%	27.6%
2023		前期	3,312人	19.2%	49.4%	11.8%	1.5%	22.2%
		後期	3,097人	16.6%	51.5%	11.8%	1.5%	21.8%
2024		前期	4,246人	16.3%	57.6%	11.8%	1.5%	19.2%
		後期	3,662人	14.7%	60.1%	11.8%	1.5%	18.2%
全学年	2025	前期	4,078人	13.4%	LIFE LIGHT LOVE 63.9%	1.5%	16.9%	
1年生	2025	前期	1,391人	16.4%	60.5%	1.5%	19.0%	
2年生	2025	前期	1,232人	1.5%	68.3%	1.5%	15.1%	
3年生	2025	前期	820人	11.7%	67.2%	1.5%	14.3%	
4年生	2025	前期	635人	14.2%	58.4%	1.5%	19.4%	
			0	50%				100%

### 「LIFE LIGHT LOVE」と回答した学生の割合は年々増加傾向である

「LIFE LIGHT LOVE」と回答した学生の割合は、2年生と3年生が一番多かった。

- 「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」
- LIFE LIGHT LOVE
- 地の塩 世の光
- ゆたかに学び 地域へ 世界へ－よく生きる心が育つ東北学院－
- 特に無い
- その他

その他の回答(一部)  
私立大学、無難な大学、  
人数が多い、明るい人が多い

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 6. 令和7年度(2025年度)「全国学生調査」

※ 2024年度前期より追加

Q. 17 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか

◆ 経年変化(全学年) / 今期(学年別)

				No.01			No.02			No.03			
理解がしやすいように教え方が工夫されていた。				予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。				課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。					
満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)					
全学部	全学年	2024	前期	4,246人	33.5%	60.1%	3.26	34.5%	52.6%	3.21	25.8%	46.9%	2.94
			後期	3,662人	31.1%	62.6%	3.24	30.6%	56.0%	3.16	25.8%	50.4%	2.98
全学部	全学年	2025	前期	4,078人	32.9%	60.0%	3.25	33.4%	54.1%	3.20	24.7%	48.4%	2.93
全学部	1年生	2025	前期	1,391人	33.2%	59.5%	3.25	35.7%	52.1%	3.23	24.4%	47.7%	2.90
	2年生	2025	前期	1,232人	32.5%	61.0%	3.26	34.9%	55.0%	3.24	24.7%	50.6%	2.96
	3年生	2025	前期	820人	33.7%	58.0%	3.25	32.7%	54.4%	3.19	24.4%	48.9%	2.94
	4年生	2025	前期	635人	32.1%	61.6%	3.26	26.3%	56.7%	3.08	26.1%	44.9%	2.93

■ 4\_よくあった ■ 2\_あまりなかった  
 ■ 3\_ある程度あった ■ 1\_なかつた

				No.04			No.05			No.06			
グループワークやディスカッションの機会がある。				質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。				ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。					
満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)					
全学部	全学年	2024	前期	4,246人	33.0%	48.3%	3.11	27.9%	51.2%	3.04	46.0%	24.3%	2.82
			後期	3,662人	31.7%	50.5%	3.12	26.7%	52.3%	3.03	49.0%	23.5%	2.82
全学部	全学年	2025	前期	4,078人	32.0%	50.4%	3.12	26.7%	52.0%	3.02	47.6%	24.1%	2.85
全学部	1年生	2025	前期	1,391人	35.7%	49.9%	3.20	26.4%	52.3%	3.02	51.3%	24.3%	2.92
	2年生	2025	前期	1,232人	30.8%	53.6%	3.13	26.5%	53.2%	3.04	47.5%	24.5%	2.85
	3年生	2025	前期	820人	32.0%	48.5%	3.10	26.8%	52.1%	3.04	46.5%	26.7%	2.83
	4年生	2025	前期	635人	26.5%	47.7%	2.96	27.2%	48.8%	2.99	41.6%	27.1%	2.68

■ 4\_よくあった ■ 2\_あまりなかった  
 ■ 3\_ある程度あった ■ 1\_なかつた

## 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

No.01				No.02			No.03		
理解がしやすいように教え方が工夫されていた。				予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。				課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。	
回答スコアは、全学年でほぼ同じだった。				回答スコアは、1~2年と比較して3~4年生では若干低下している。				回答スコアは、1年生と比較して2~4年生が若干高い。	
No.04				No.05			No.06		
グループワークやディスカッションの機会がある。				質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。				ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。	
回答スコアは、1年生が一番高く、年次が上がるにつれ低下している。				回答スコアは、1~3年生はほぼ同じ値。4年生が若干低下した。				回答スコアは、1年生が一番高く、年次が上がるにつれ低下している。	

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

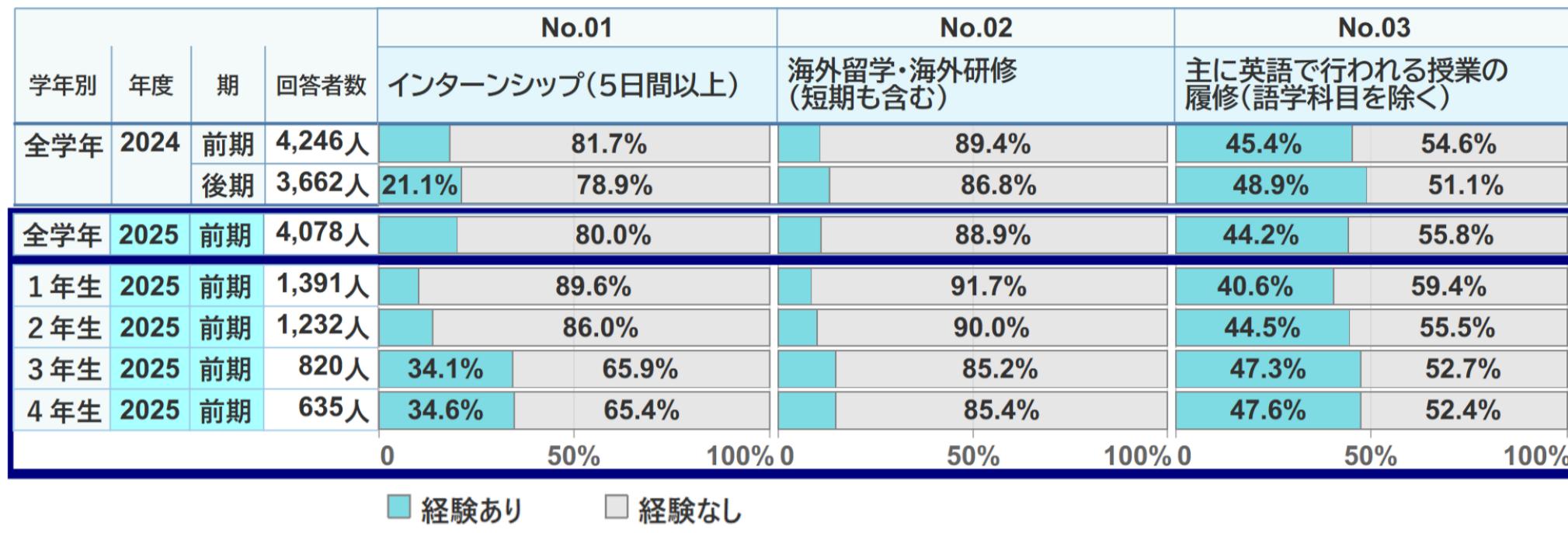
## ■ 6. 令和7年度(2025年度)「全国学生調査」

Q. 18 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか

### ① 経験の有無(※1)の集計

※1 : 「①経験していない」と回答した学生と、①以外を選択した学生との比較集計

#### ◆ 経年変化 (全学年) / 今期(学年別)



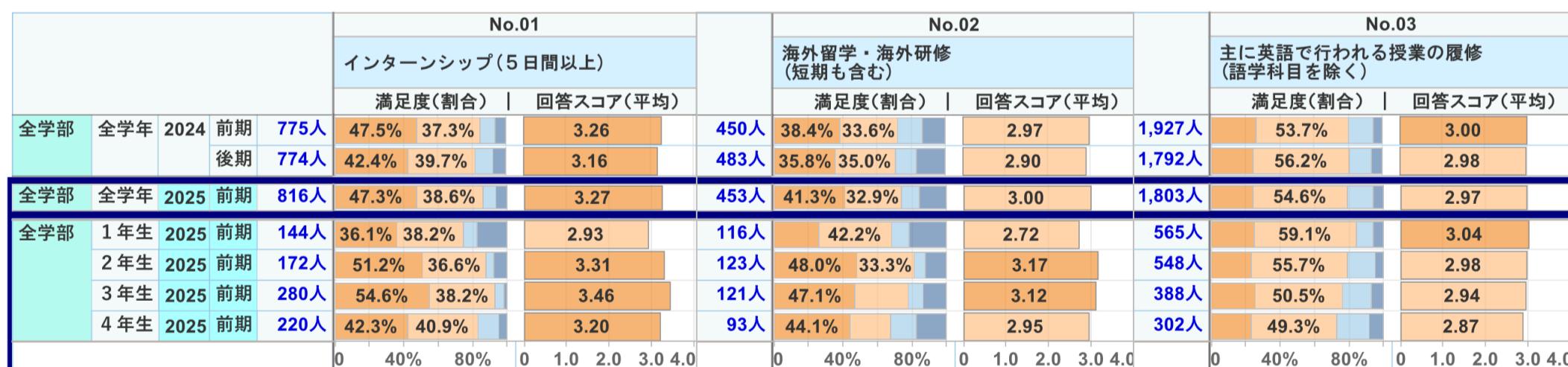
### 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

			No.01		No.02		No.03	
			インターンシップ(5日間以上)		海外留学・海外研修(短期も含む)		主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)	
1・2年生に比べ、3・4年生での経験者は倍以上だった。								

### ② 経験あり(※2)と回答した学生について、各経験の有用度を集計

※2 : 「①経験していない」を選択した学生を除外

#### ◆ 経年変化 (全学年) / 今期(学年別)



### 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

No.01			No.02			No.03		
インターンシップ(5日間以上)			海外留学・海外研修(短期も含む)			主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)		
回答スコアは、1年生が特に低いが、2年生、3年生では徐々に上昇している。			回答スコアは、1年生は低い。2年生が一番高く、3年生、4年生では徐々に低下している。			回答スコアは、年次が高くなるにつれ、徐々に低下する傾向がある。		

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

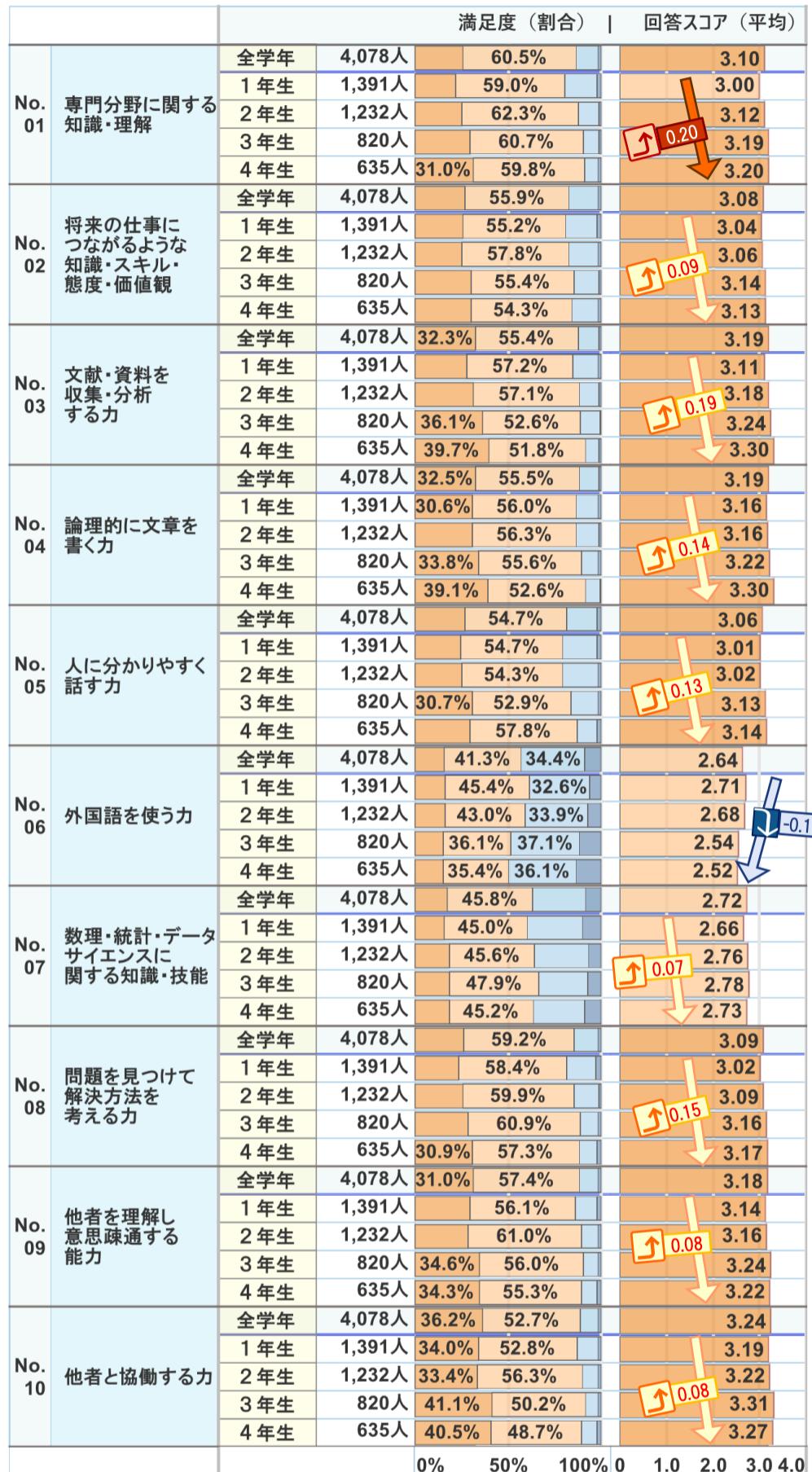
2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 6. 令和7年度(2025年度)「全国学生調査」

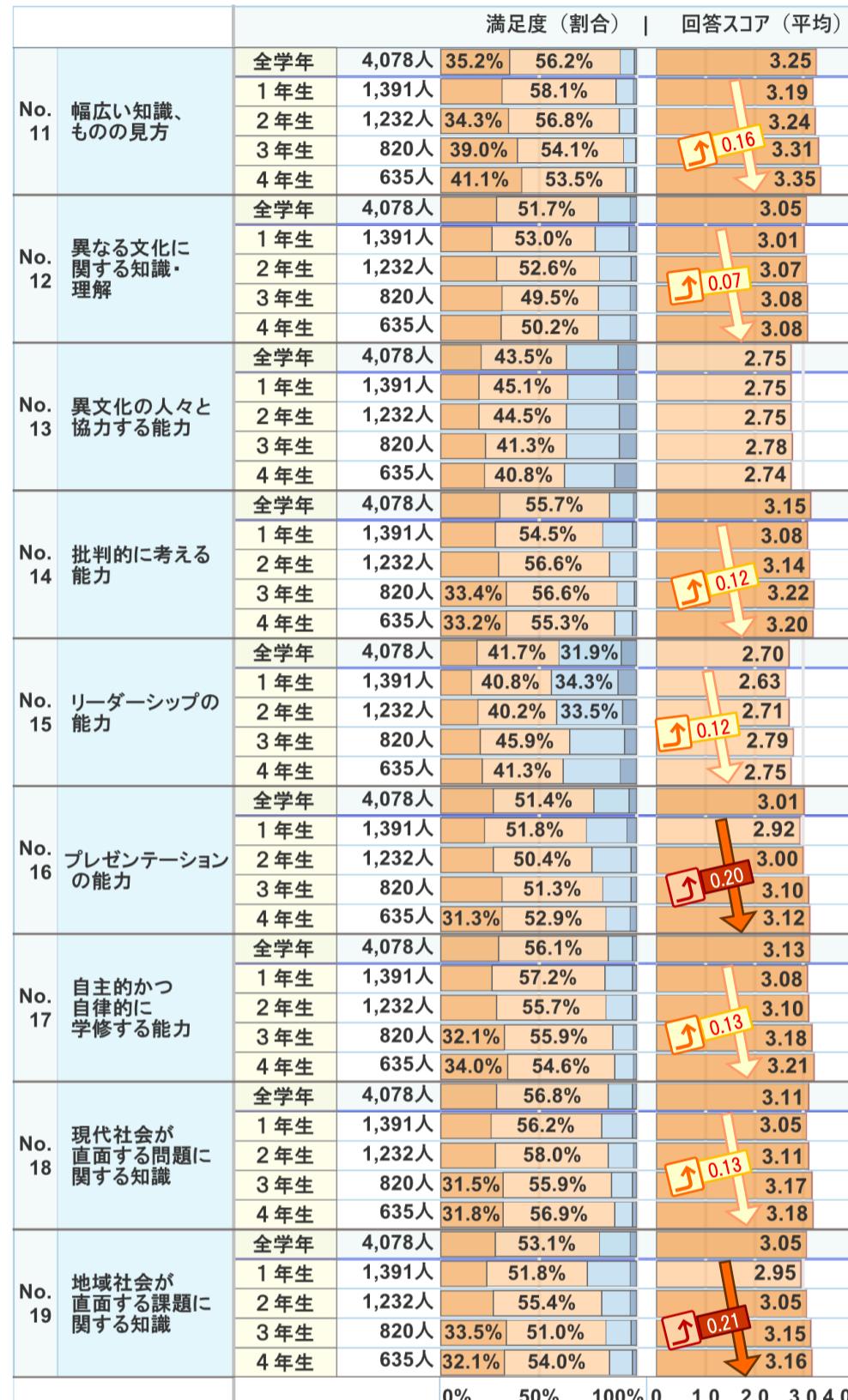
Q.19 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか

※:一部、東北学院大学独自設問あり

◆ 今期 (全学年／学年別)



■ 4\_身に付いた  
■ 3\_ある程度身に付いた  
■ 2\_あまり身に付いていない  
■ 1\_身に付いていない



1年生と4年生の回答平均の差  
差が0.20以上 … x.xx   
差が0.01以上 … x.xx   
1年生より低い … x.xx

ほとんどの分野で、年次が上がるほど大学での成長を実感する傾向がある。

特に成長実感が高い項目は下記の通り

- No.01 専門分野に関する知識や能力
- No.12 プrezentationの能力
- No.15 地域社会が直面する課題に関する知識

(回答スコア … 0.20上昇)  
(回答スコア … 0.20上昇)  
(回答スコア … 0.21上昇)

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 6. 令和7年度(2025年度)「全国学生調査」

Q. 20 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか

◆ 経年変化 (全学年) / 今期(学年別)

			No.01				No.02				No.03				No.04			
			卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。				授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。				教職員が熱心に教育に取り組んでいる。				大学の学びによって成長を実感している。			
			満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)				満足度(割合)   回答スコア(平均)			
全学部	全学年	2024	前期	4,246人	32.7%	55.4%	3.19	47.4%	2.79	58.0%	3.07	56.8%	3.13	55.4%	3.13	56.8%	3.13	
			後期	3,662人	30.0%	58.7%	3.17	50.0%	2.80	59.7%	3.05	58.4%	3.14	55.4%	3.14	56.8%	3.14	
全学部	全学年	2025	前期	4,078人	30.9%	57.3%	3.18	48.9%	2.80	59.7%	3.09	57.9%	3.13	55.4%	3.13	56.8%	3.13	
全学部	1年生	2025	前期	1,391人	33.5%	55.0%	3.20	51.5%	2.86	60.3%	3.10	57.2%	3.14	55.4%	3.14	56.8%	3.14	
	2年生	2025	前期	1,232人	57.7%	3.15	46.4%	2.76	60.8%	3.08	58.1%	3.11	55.4%	3.11	56.8%	3.11		
	3年生	2025	前期	820人	59.3%	3.16	48.3%	2.78	58.3%	3.07	57.9%	3.13	55.4%	3.13	56.8%	3.13		
	4年生	2025	前期	635人	31.5%	58.9%	3.21	48.5%	2.76	58.3%	3.09	59.2%	3.15	55.4%	3.15	56.8%	3.15	

■ 4\_そう思う  
■ 3\_ある程度そう思う

■ 2\_あまりそうは思わない  
■ 1\_そうは思わない

### 昨年度並み 特に大きな変化はなかった

No.01	No.02	No.03	No.04
卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。  回答スコアは、1年生と4年生の数値が若干高い。	授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。  回答スコアは1年生が若干高い。「1_そうは思わない」は年次が上がるにつれ増加傾向。その一方「4_そう思う」は2~4年生でほぼ同じ値だった(約17.5%程度)。	教職員が熱心に教育に取り組んでいる。  学年別の差は特に見られなかった。肯定的な回答は各学年とも85%程度と高い数値。	大学の学びによって成長を実感している。  「1_そうは思わない」と回答した学生は、どの学年でも2%程度。4年生の満足度が若干高い。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

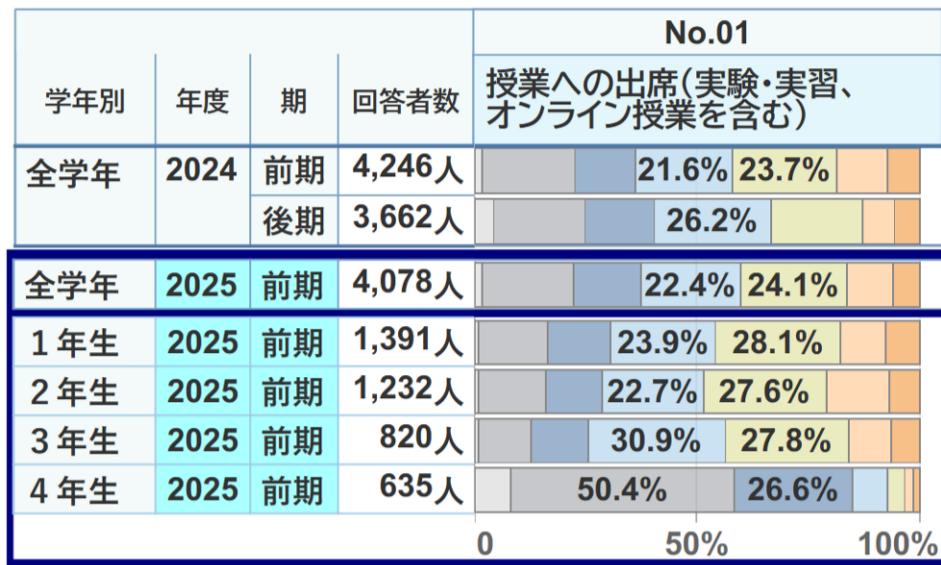


## ■ 6. 令和7年度(2025年度)「全国学生調査」

Q. 21 今年度前期の授業期間中の平均的な一週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか

◆ 経年変化 (全学年) / 今期(学年別)

No. 1 授業への出席(実験・実習、オンライン授業を含む)

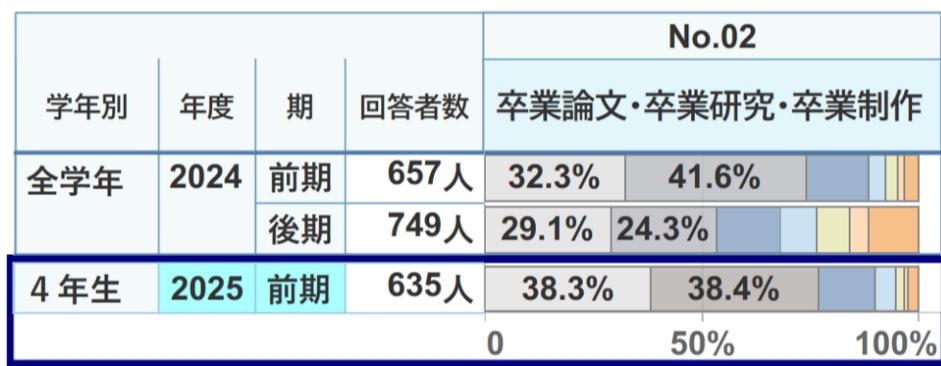


昨年度並み 特に大きな変化はなかった

学習時間は、3年次まで年次が上がるにつれ上昇傾向であるが、4年生の約8.5割は10時間以下と低い数値。

■ 0時間  
■ 1-5時間  
■ 6-10時間  
■ 11-15時間  
■ 16-20時間  
■ 21-30時間  
■ 31時間以上

No. 2 卒業論文・卒業研究・卒業制作

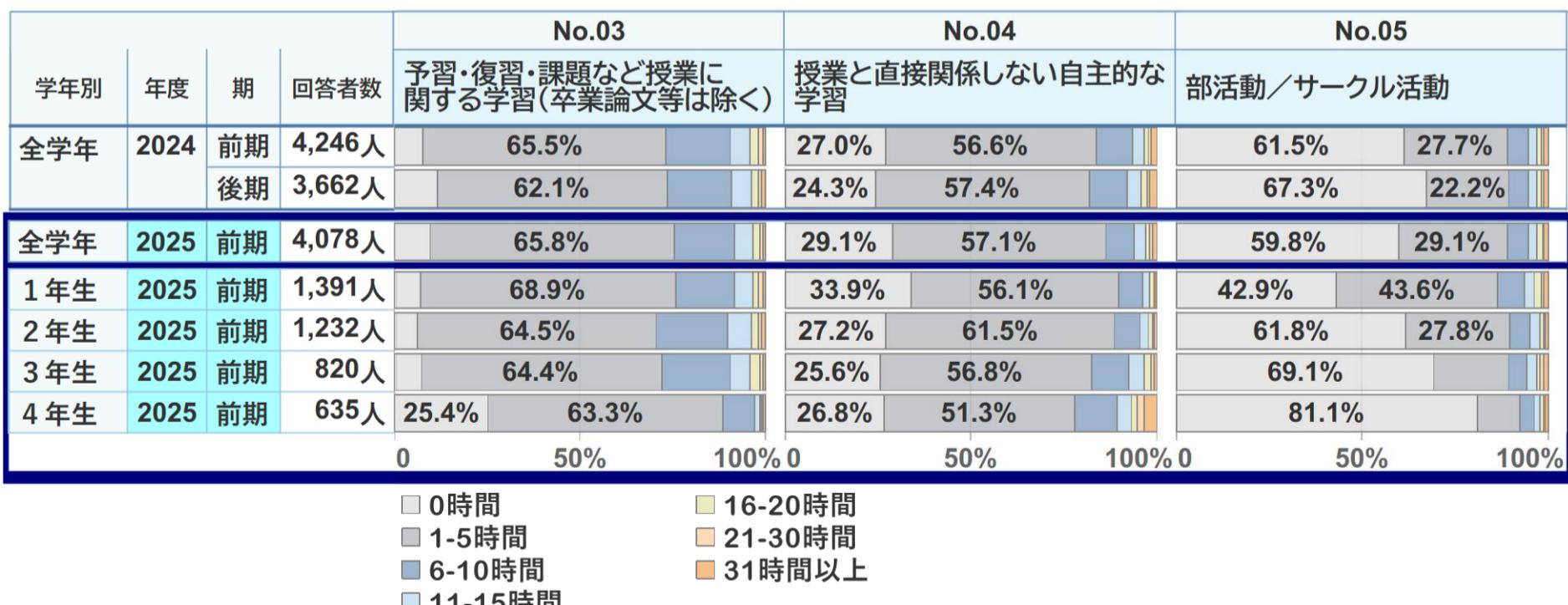


昨年度前期よりいくらか差がみられた

昨年度前期より、若干時間が減少した。  
0時間の学生は、年度前期より6%程度増加した。

■ 0時間  
■ 1-5時間  
■ 6-10時間  
■ 11-15時間  
■ 16-20時間  
■ 21-30時間  
■ 31時間以上

No. 3、No. 4、No. 5



■ 0時間  
■ 1-5時間  
■ 6-10時間  
■ 11-15時間  
■ 16-20時間  
■ 21-30時間  
■ 31時間以上

昨年度並み 特に大きな変化はなかった

No.03		No.04		No.05	
予習・復習・課題など授業に関する学習(卒業論文等は除く)		授業と直接関係しない自主的な学習		部活動／サークル活動	
1~3年生はあまり差がなかった。		0時間の学生は1年生の1/3、2~4年生の1/4。 一方で6時間以上の学生は年次が上がるにつれ増加傾向である。 (1年生の1割、4年生の1/4)		活動は一週間に1~5時間の学生がほとんど。 1週間に6時間以上の学生は、1年生の1.5割、4年生では8%程度。	

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

## 2025年度前期（2025/9/8～10/3）実施分

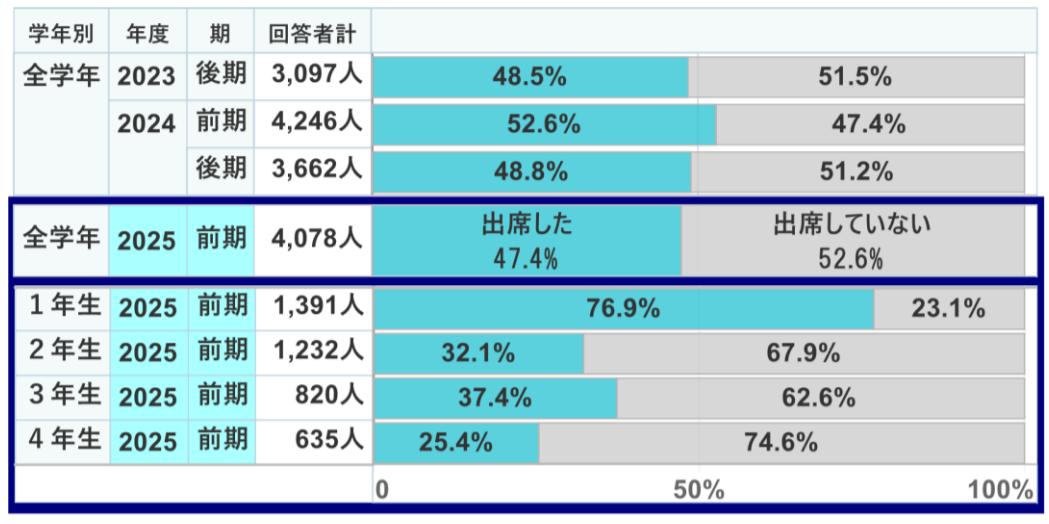
### ■ 7. 大学礼拝に関する調査

Q. 22 東北学院大学では週3回程度礼拝に出席することを推奨しています。  
2025年度前期は大学礼拝にどの程度出席しましたか

#### ① 経験の有無(※1)の集計

※1：「6 出席していない」を選択した学生と、6 以外を選択した学生との比較集計

##### ◆ 経年変化(全学年)／今期(学年別)

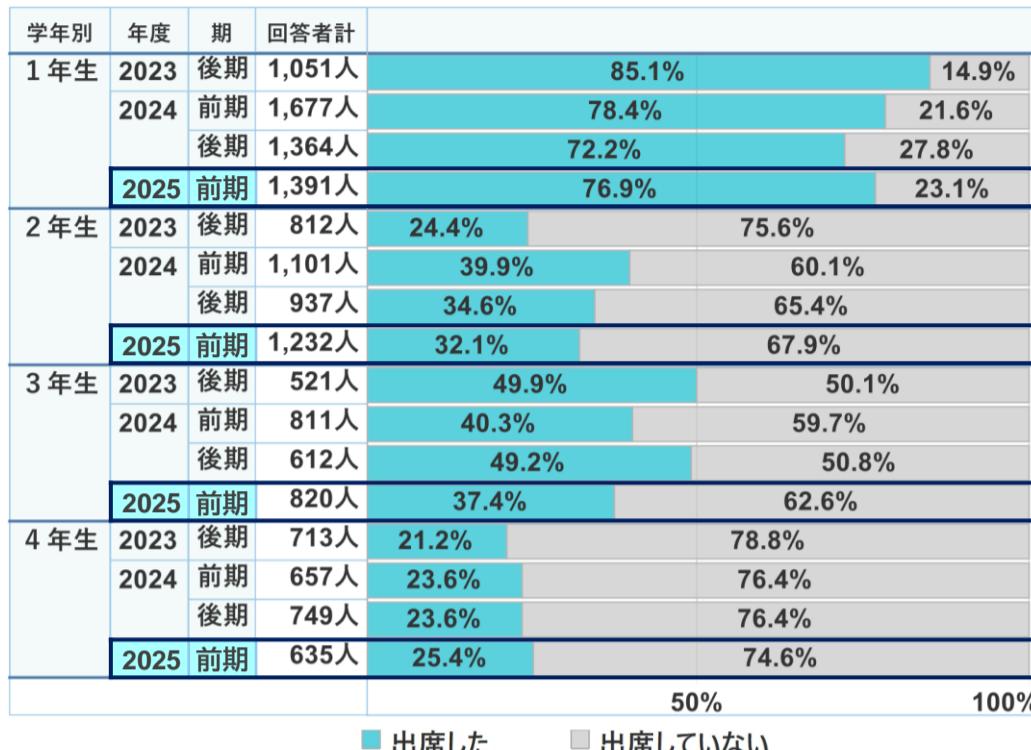


■ 出席した ■ 出席していない

大学礼拝に出席した学生は、前年度前期と比較して5%減少した

例年、1年生の出席率が高い。  
2年生の約3分の1、3年生の約3分の2が出席している。  
4年生は履修授業が少ない学生が多いものの、礼拝への出席経験がある学生は約1/4。

##### ◆ 経年変化(学年別)



■ 出席した ■ 出席していない

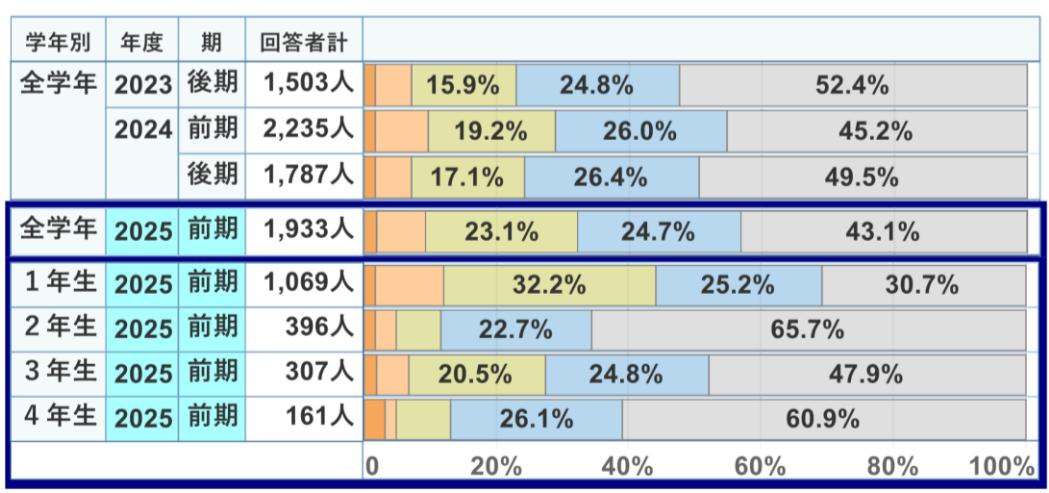
学年により、経年での変化が見られた

1年生の参加率は、昨年度前期と比較して約2%低下した。  
2年生の参加率は、低下傾向である。  
3年生の参加率は、昨年度前期と比較して約3%低下した。  
4年生の参加率は、若干上昇傾向である。

#### ② 出席した学生(※2)の礼拝出席頻度の集計

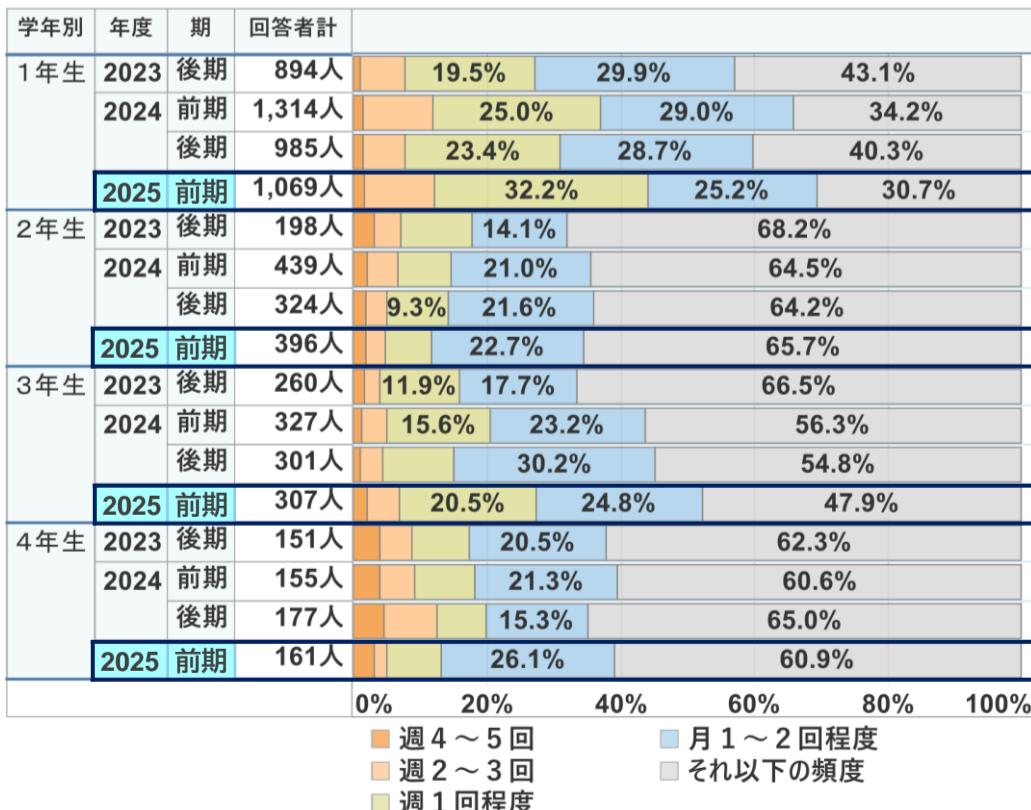
※2：「6 出席していない」を選択した学生を除外

##### ◆ 経年変化(全学年)／今期(学年別)



■ 週4～5回  
■ 週2～3回  
■ 週1回程度

##### ◆ 経年変化(学年別)



■ 週4～5回  
■ 週2～3回  
■ 週1回程度

前年度前期と比較して、大きな変化はなかった

大学礼拝に出席した学生のうち、週4～5回出席した学生の割合は、年次が上がるにつれ若干上昇傾向である。  
週1回程度出席した学生は、1年生と3年生が多かった。  
月1回～2回程度出席した学生は、どの学年でも2.5割前後だった。

学年により経年での変化が見られた

- 1年生では、昨年度前期と比較して、礼拝出席頻度が週1回程度の学生の割合が約7%増加した。
- 2年生では、礼拝出席頻度が若干低下傾向である。
- 3年生では、礼拝出席頻度が上昇傾向であり、昨年度前期と比較して週1回程度の割合が約5%増加した。
- 4年生では、昨年度前期と比較して礼拝出席頻度が低下している。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 7. 大学礼拝に関する調査

Q. 23 大学礼拝に行く理由は何ですか (複数選択可)

### ◆ 学年別

1年生	2年生	3年生	4年生
1,069人	396人	307人	161人
キリスト教の授業の一環として出席している 511人(53.3%)	雰囲気が良いから 129人(35.8%)	キリスト教の授業の一環として出席している 149人(53.2%)	キリスト教の授業の一環として出席している 57人(37.5%)
雰囲気が良いから 254人(26.5%)	パイプオルガンの音楽を聴きたいから 117人(32.5%)	パイプオルガンの音楽を聴きたいから 70人(25.0%)	雰囲気が良いから 49人(32.2%)
パイプオルガンの音楽を聴きたいから 248人(25.9%)	キリスト教の授業の一環として出席している 84人(23.3%)	雰囲気が良いから 69人(24.6%)	パイプオルガンの音楽を聴きたいから 31人(20.4%)
習慣として出席している 149人(15.5%)	心が成長するから 62人(17.2%)	心が成長するから 34人(12.1%)	心が成長するから 26人(17.1%)
心が成長するから 91人(9.5%)	習慣として出席している 38人(10.6%)	習慣として出席している 23人(8.2%)	礼拝の説教者によって出席している 18人(11.8%)
礼拝の説教者によって出席している 39人(4.1%)	礼拝の説教者によって出席している 19人(5.3%)	礼拝の説教者によって出席している 12人(4.3%)	習慣として出席している 13人(8.6%)
人とのつながりが欲しいから 24人(2.5%)	人とのつながりが欲しいから 11人(3.1%)	人とのつながりが欲しいから 6人(2.1%)	人とのつながりが欲しいから 5人(3.3%)
その他 169人(100.0%)	その他 53人(100.0%)	その他 42人(100.0%)	その他 17人(100.0%)
0 20% 40%	0 20% 40%	0 20% 40%	0 20% 40%

### その他の回答(一部)

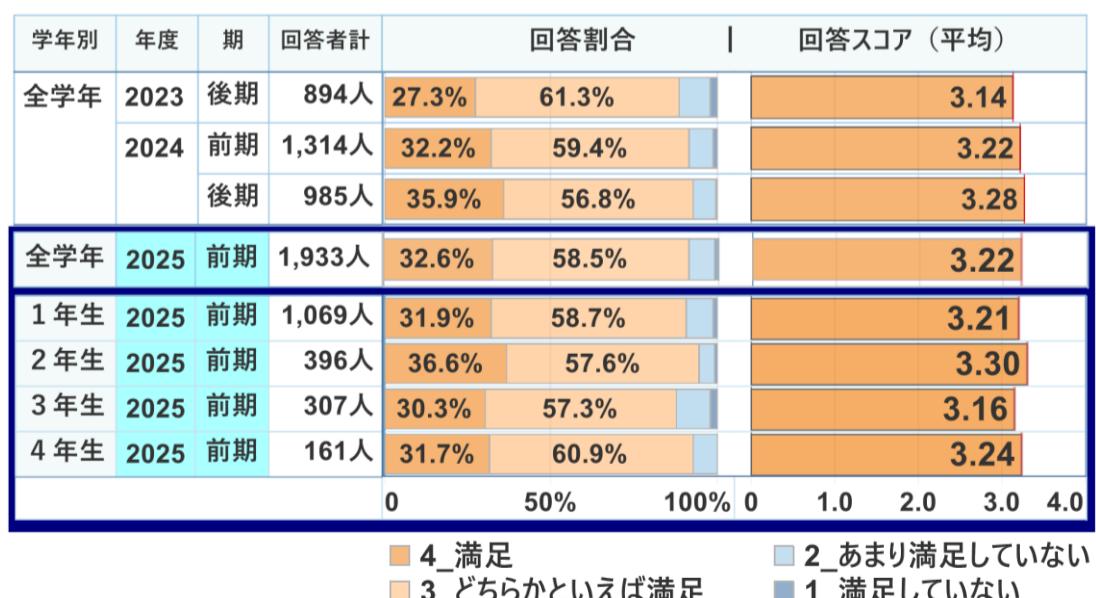
自分にはない考え方を知ることができる、東北学院大学の学生として、高校の時からの習慣、聖歌隊関連(友達が聖歌隊、自分が聖歌隊)

大学礼拝に行く理由は、1年生と3年生の約半数は授業の一環としての出席

2年生が大学礼拝に行く理由の1番目と2番目は「雰囲気が良いから」と「パイプオルガンの音楽を聴きたいから」であり、授業の一環としての参加以外にも明確な動機を見出していると推察される。  
また、この2つの理由はどの学年でも約2割～3.5割の学生が挙げており、全体としても上位の回答となっている。

Q. 24 礼拝にどれくらい満足していますか

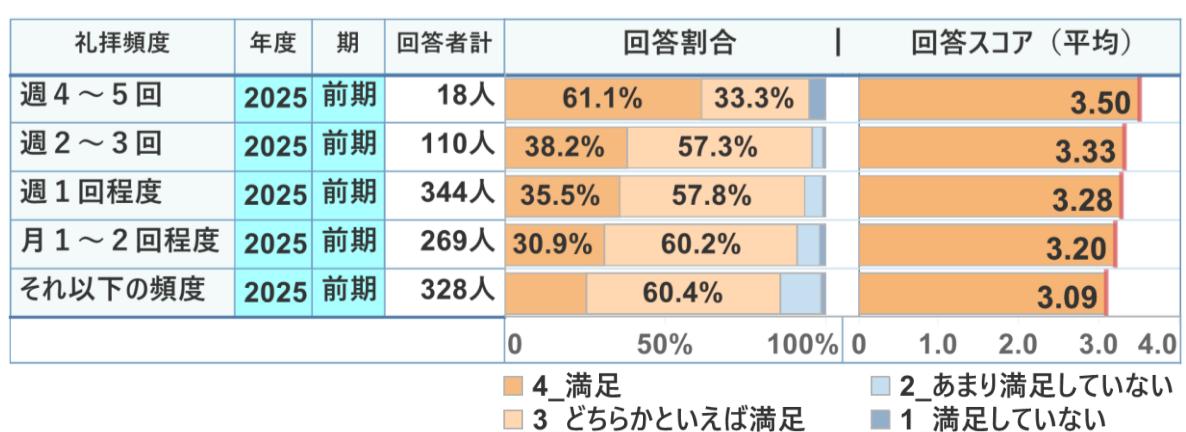
### ◆ 経年変化(全学年) / 学年別



礼拝の満足度は、前年度前期と比較して特に変化はなかった

礼拝の満足度は2年生が一番高い。  
礼拝に行く理由として授業の一環以外の理由を見出していることが高い満足度に繋がっていると考えられる。

### ◆ 大学礼拝頻度別



礼拝出席頻度が高いほど、礼拝の満足度が高い傾向がある

週4～5回出席している学生のうち、約3分の2が「満足」と回答している。

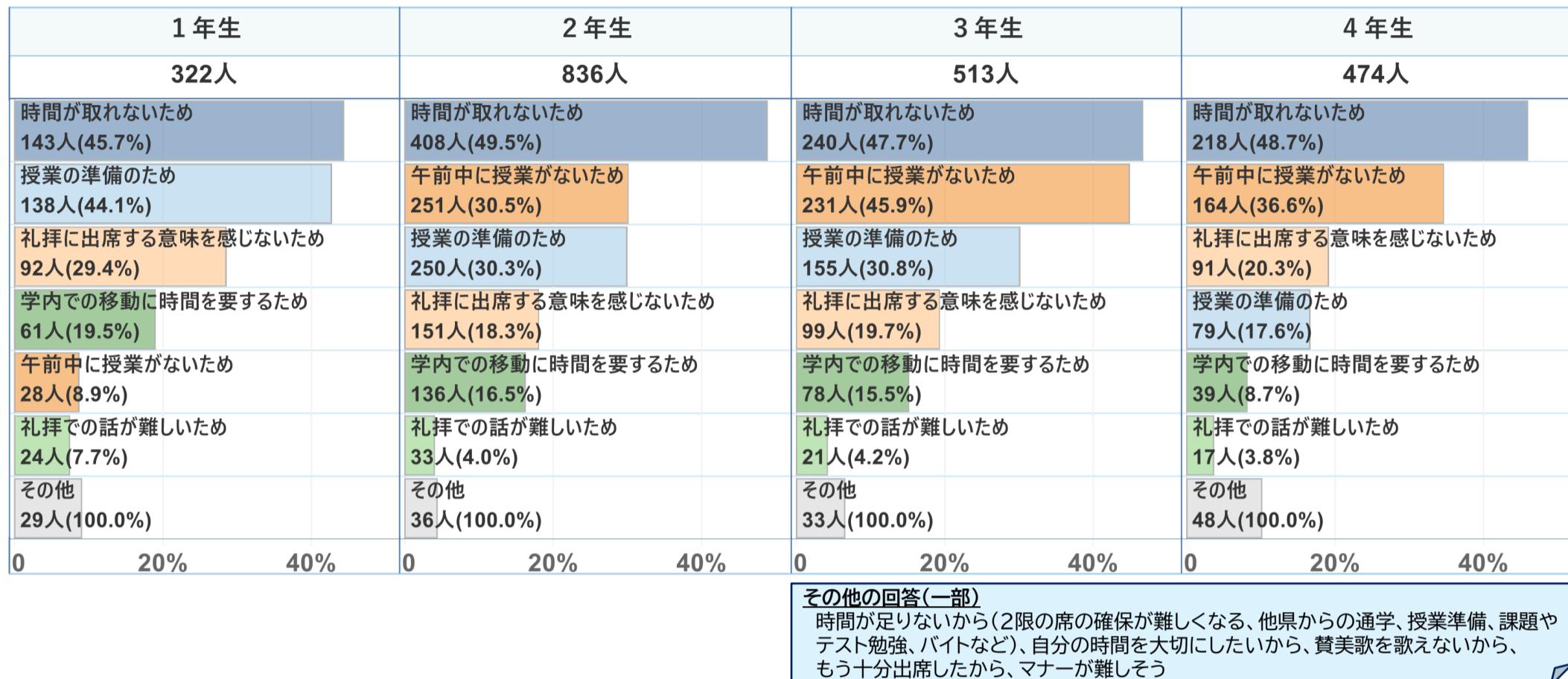
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 7. 大学礼拝に関する調査

Q. 25 大学礼拝に出席していない理由は何ですか (複数選択可)

### ◆ 学年別



### その他の回答(一部)

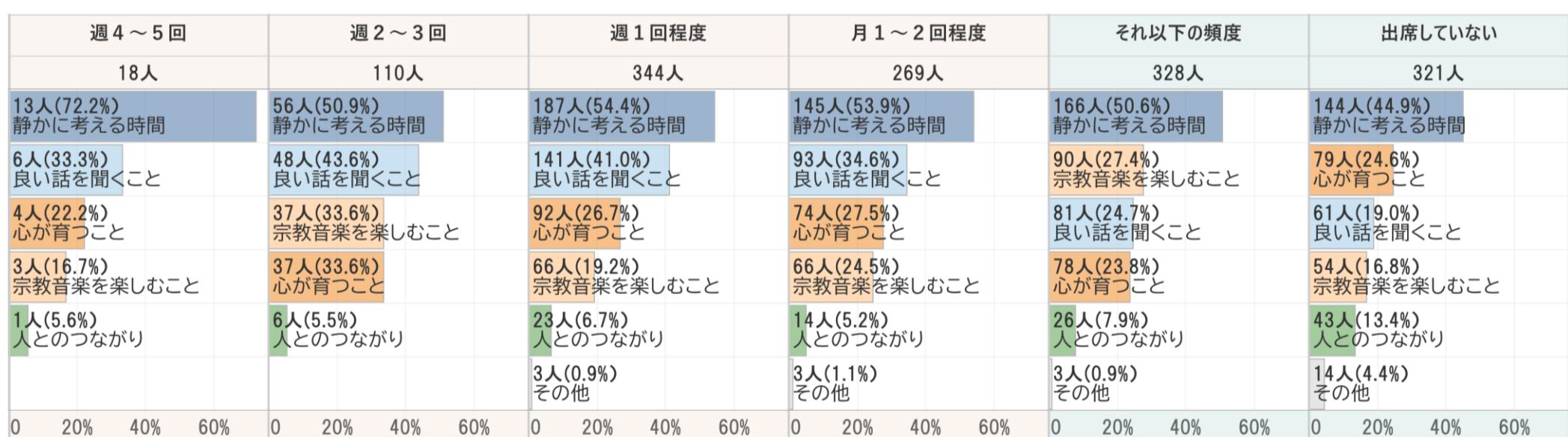
時間が足りないから(2限の席の確保が難しくなる、他県からの通学、授業準備、課題やテスト勉強、バイトなど)、自分の時間を大切にしたいから、賛美歌を歌えないから、もう十分出席したから、マナーが難しそう

## 大学礼拝に出席していない理由は「時間が取れないため」

学年別の集計では、大学礼拝に出席しない理由として最も多かったのは「時間が取れないため」で、どの学年でも約半数がこの理由を挙げていた。また、他の理由として「午前中に授業がないため」という回答も目立ち、2~4年生では約3~5割がこの理由を一つとして挙げている。さらに、「Q31 履修登録及びキャンパス移動等に関して困った点」でも教室の移動に苦慮している学生が多く見受けられる。このことから、礼拝に出席したい気持ちはあっても、限られた休憩時間の中で教室移動や授業準備との両立が難しい側面があると考えられる。

Q. 26 大学礼拝にはどのようなことを期待していますか (複数選択可)

### ◆ 大学礼拝出席頻度別



### その他の回答(一部)

自分で得られなかった考え方を学べる、宗教的な興味深い逸話、面白い話を聞くこと、キリスト教に触れること、特に期待していない

## 大学礼拝に期待することは「静かに考える時間」

「静かに考える時間」と回答した学生の割合が最も高く、出席頻度に関わらず全体の約半数がこの理由を挙げている。特に週4~5回出席する学生では約4分の3に達しており、他の層に比べて顕著に高い傾向が見られる。学年別で比較しても、各学年で約半数の学生が同じ理由を挙げていた。また、月1回以上出席している学生は、「良い話を聞くこと」を理由の2番目に挙げていた。

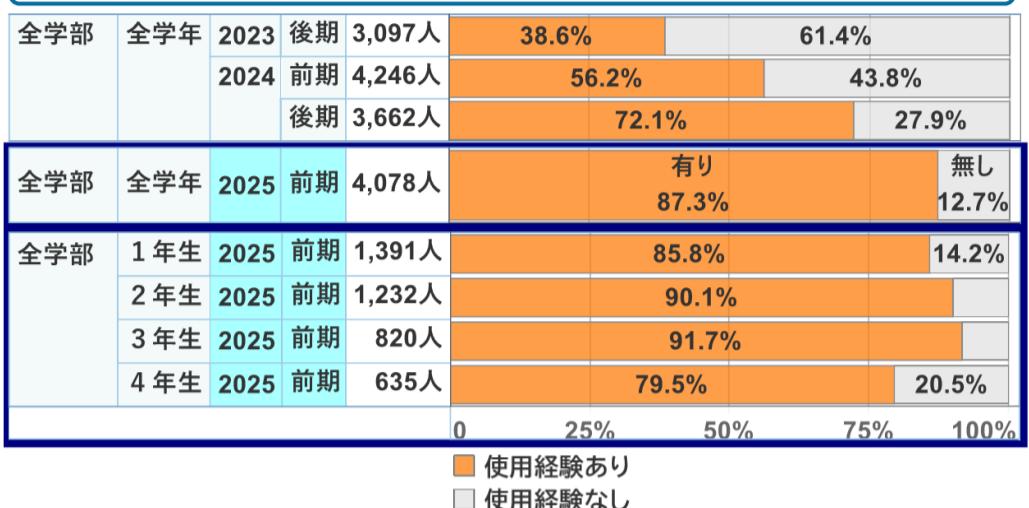
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 9. 生成AIに関する調査

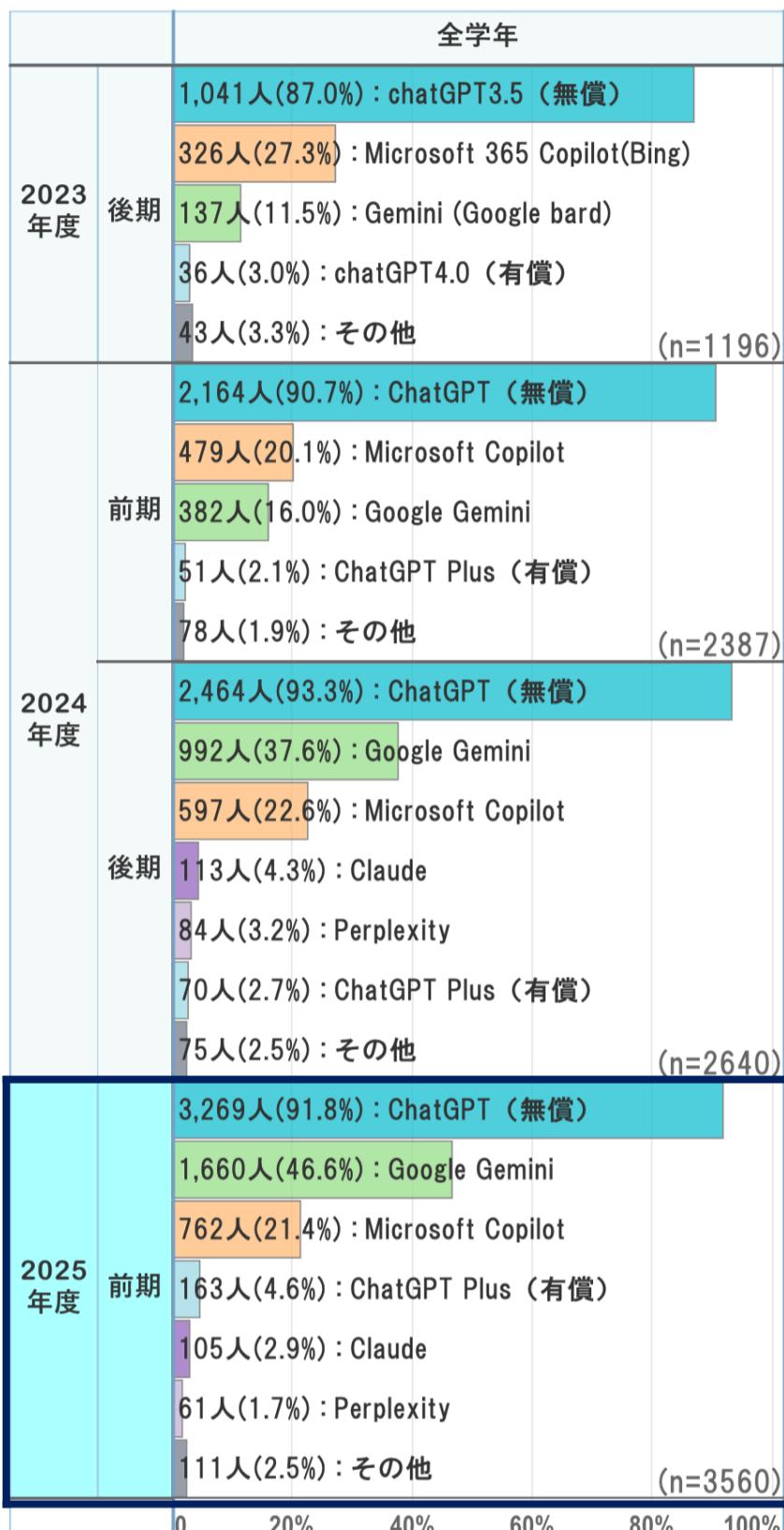
Q. 32 生成AIを使用したことがありますか

### ◆ 経年変化(全学年)/学年別



Q. 33 使用したことがある生成AIを選択してください  
(複数選択可)

### ◆ 経年変化(全学年)



生成AIの使用経験がある学生は、  
前年度後期と比較して15%増加した

生成AIの使用経験があると回答した学生は、学年別では、1年生から3年生は8.5割～9割、4年生も8割である。

学年別の経年変化を見ると、どの学年でも顕著な伸びが見られる。

使用経験がある生成AIは  
「ChatGPT(無償)」が9割以上

2番目はGoogle Geminiで、使用割合は上昇傾向である。  
ChatGPT Plus(有償)の使用割合もわずかながら上昇傾向である。

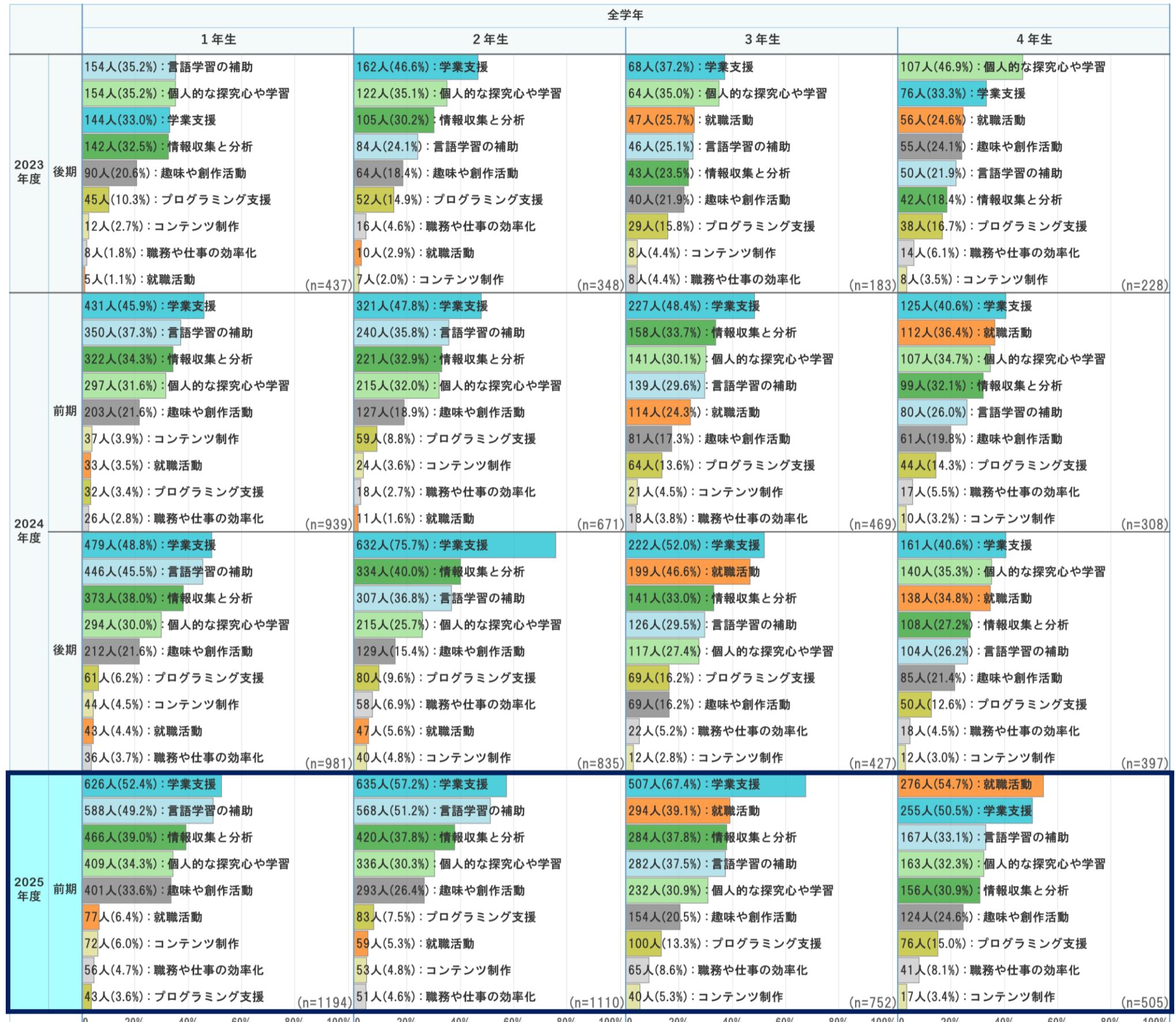
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

## 2025年度前期（2025/9/8～10/3）実施分

### ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 34 使用したことのある主な理由は何ですか(複数選択可)

#### ◆ 経年変化（全学年／学年別）



生成AIを使用したことのある主な理由は、半数以上が「学業支援」を挙げている

どの学年でも「学業支援」の割合は高い傾向がある。3年生は特に高い割合である(他の学年より10%以上高い割合)。

1年生、2年生は、この他に「言語学習の補助」の割合も高い。

4年生は「就職活動」が初めて半数を超えた。

今期は他に「趣味や創作活動」の割合も増加傾向であり、学業に限らず様々な場面で生成AIが活用されるようになっているとみられる。

# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

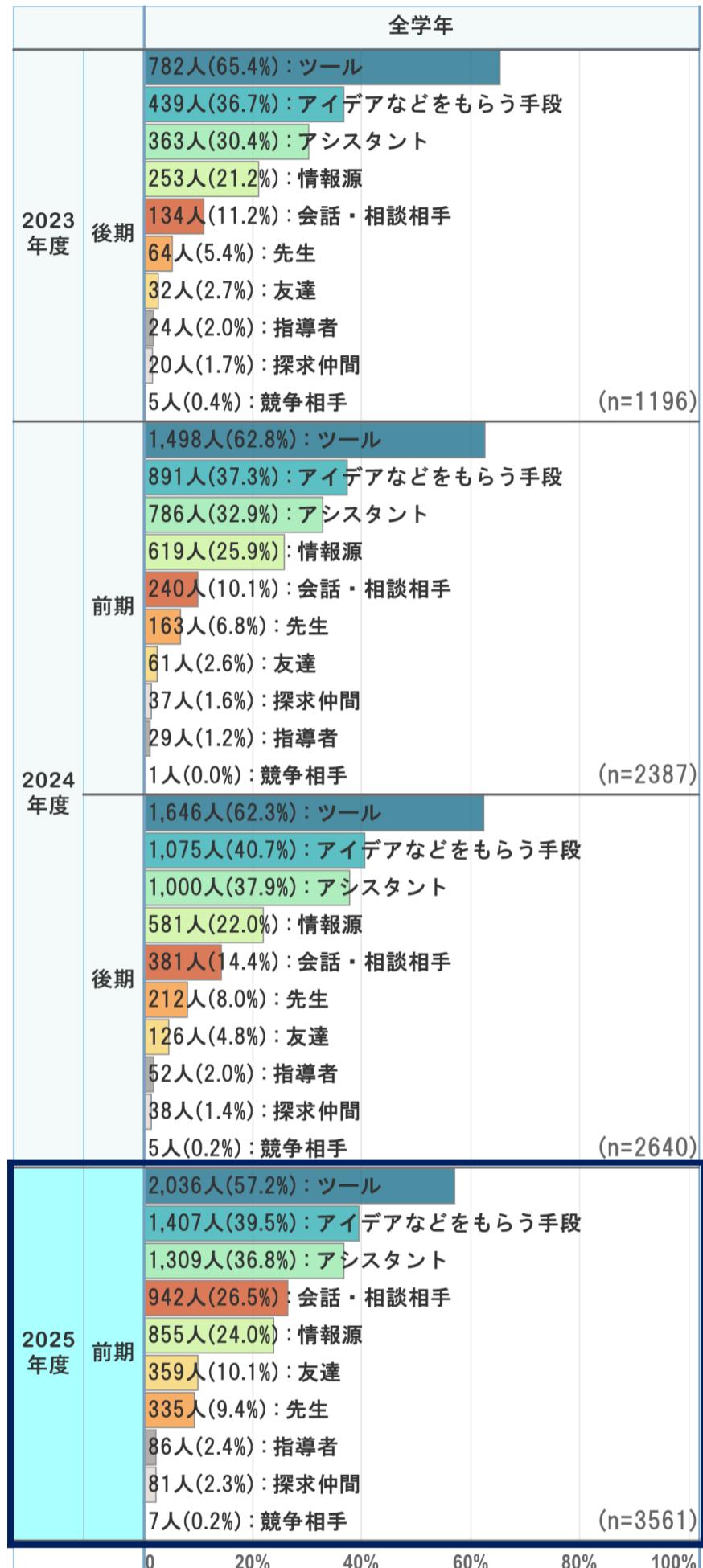
2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 35 生成AIを使用したことがあるあなたにとって、生成AIはどのような存在ですか(複数選択可)

◆ 経年変化 (全学年)



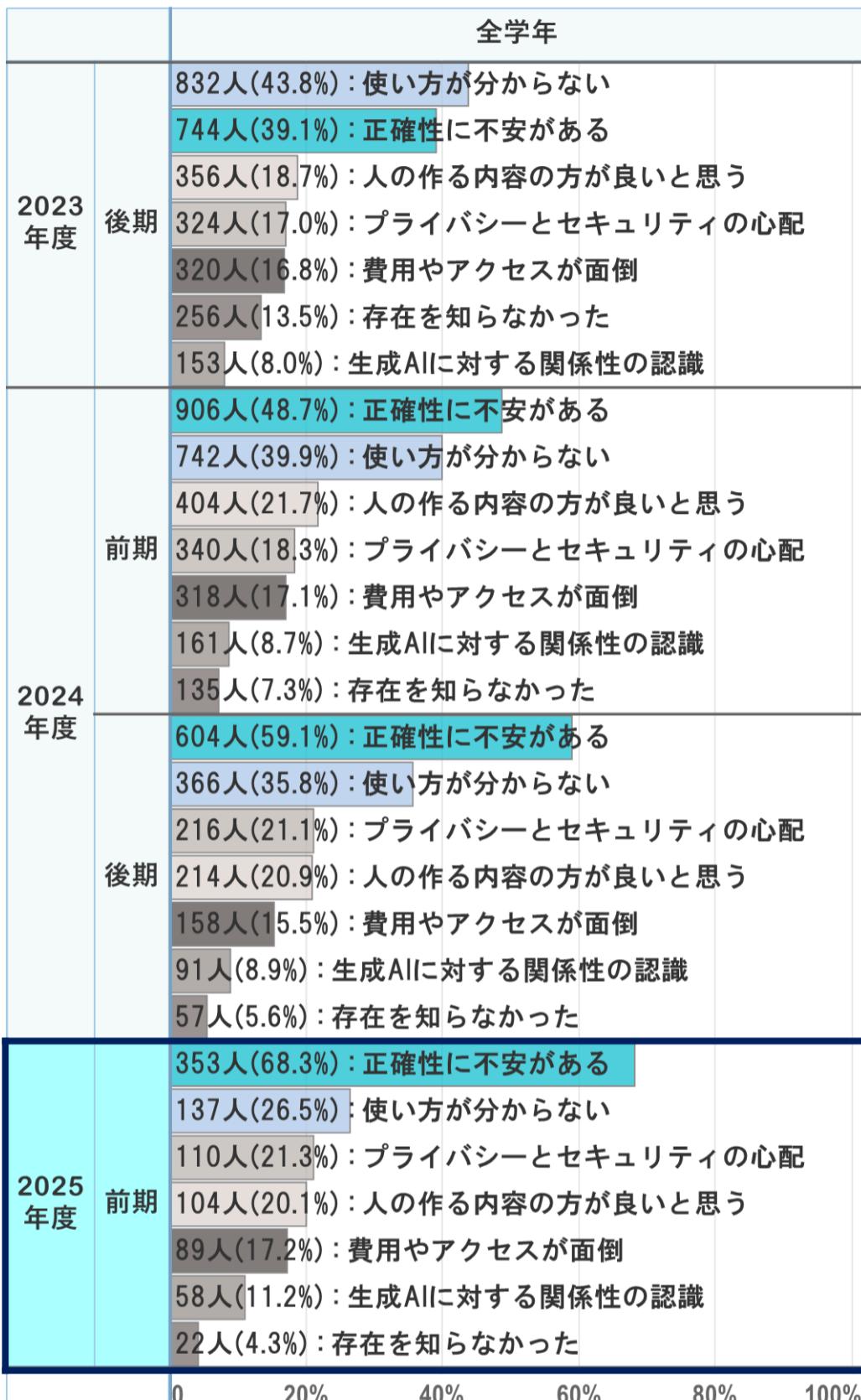
### 生成AIは、使用経験のある学生にとって「ツール」

学年によって大きな差は見られなかった。回答は「ツール」「アイデアなどをもらう手段」「アシスタント」、もしくは上位の回答を複数選択するケースが多い。

経年変化では、「会話・相談相手」「友達」「先生」といった回答が増え、単なるツール以上の役割を求める傾向が強まっている。

Q. 36 生成AIを使用しない主な理由は何ですか(複数選択可)

◆ 経年変化 (全学年)



### 生成AIを使用しない主な理由は「正確性に不安がある」

生成AIを使用しない学生の2/3は正確性に不安を感じており、生成AIの使用に対するリスクを懸念している可能性がある。

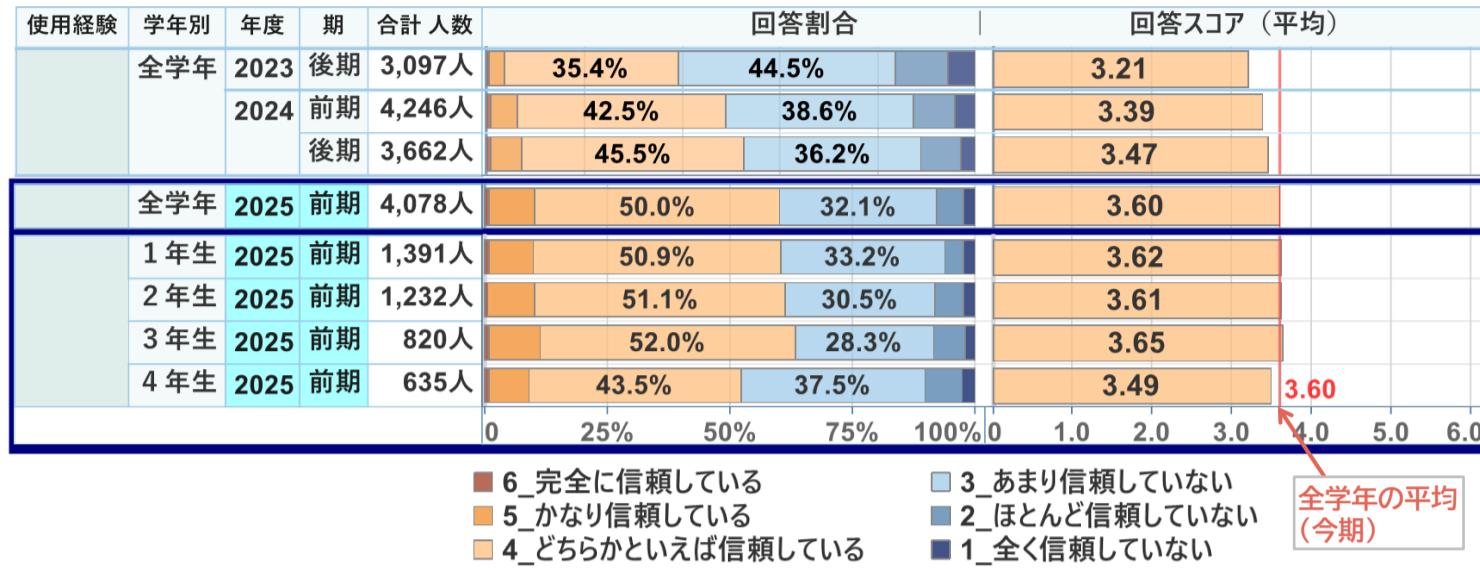
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

## 2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

### ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 37 生成AIの情報や生成物(文章、画像、コード等)をどの程度信頼していますか

#### ① 経年変化 (全学年)/学年別

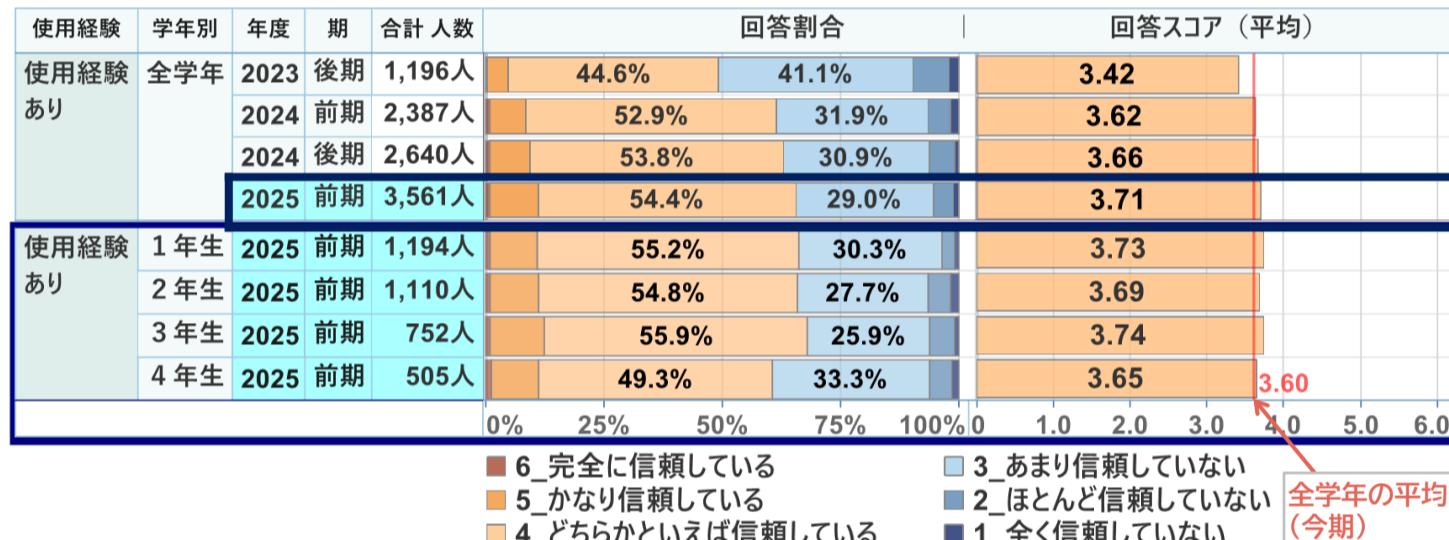


**生成AIに対する信頼度**  
(回答スコア(平均))は、  
年々上昇傾向である

1年生から3年生までは年次が上がるにつれ上昇傾向である一方、4年生では低下している。

#### ② 使用経験の有無別

##### ① 生成AIの使用経験がある学生



**生成AIの使用経験有無により、生成AIに対する信頼度に大きな差が見られた**

生成AIへの信頼度によって、生成AIを利用するかどうかが大きく分かれていることが伺える。

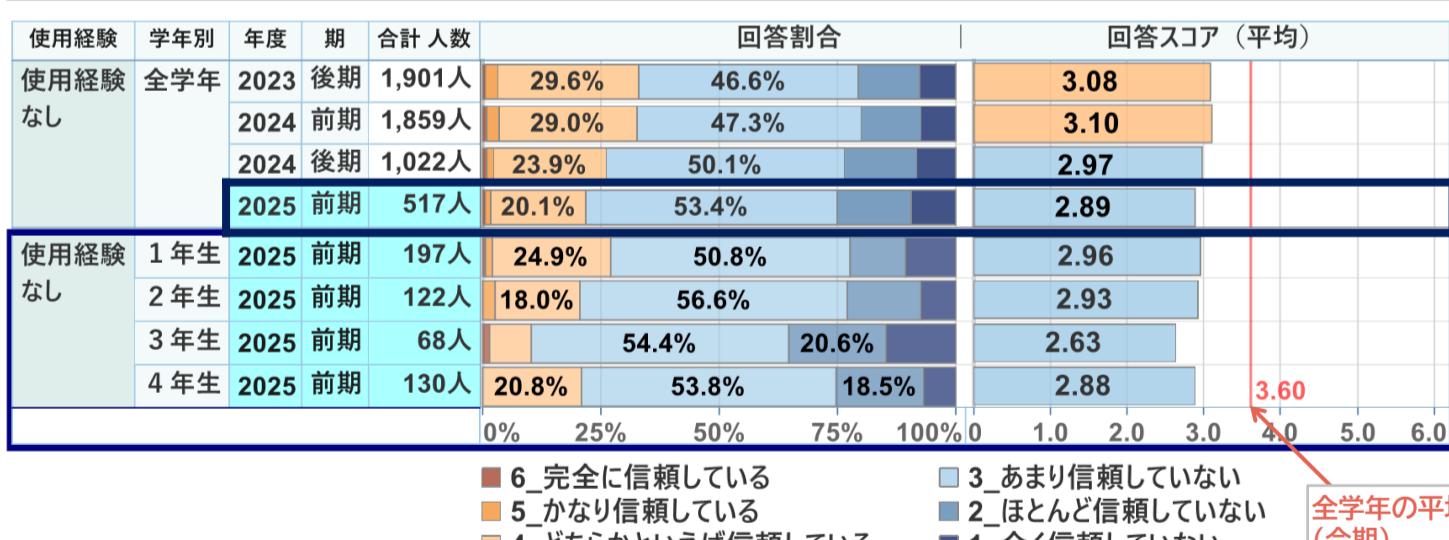
##### ① 生成AIの使用経験がある学生

- 生成AIに対する信頼度は年々上昇傾向である。
- 1年生から3年生までは年次が上がるにつれ上昇傾向である一方、4年生では低下している。

##### ② 生成AIの使用経験がない学生

- 生成AIに対する信頼度は年々低下傾向である。
- 3年生は、特に生成AIに対する信頼度が低い。

##### ② 生成AIの使用経験がない学生



# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分



## ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 37 生成AIの情報や生成物(文章、画像、コード等)をどの程度信頼していますか

◆ 今期 (学年別／生成AI使用経験有無別)

学年別	合計人数	回答項目	合計人数	使用経験あり		使用経験なし (n=197)	
				1人 (0.1%)	3人 (0.2%)		
1年生	1,391人	完全に信頼している	11人	10人 (0.7%)		1人 (0.1%)	
		かなり信頼している	123人	120人 (8.6%)		3人 (0.2%)	
		どちらかといえば信頼している	708人	659人 (47.4%)		49人 (3.5%)	
		あまり信頼していない	462人	362人 (26.0%)		100人 (7.2%)	
		ほとんど信頼していない	55人	32人 (2.3%)		23人 (1.7%)	
		全く信頼していない	32人	11人 (0.8%)	(n=1,194)	21人 (1.5%)	
2年生	1,232人	完全に信頼している	7人	7人 (0.6%)			
		かなり信頼している	118人	115人 (9.3%)		3人 (0.2%)	
		どちらかといえば信頼している	630人	608人 (49.4%)		22人 (1.8%)	
		あまり信頼していない	376人	307人 (24.9%)		69人 (5.6%)	
		ほとんど信頼していない	72人	53人 (4.3%)		19人 (1.5%)	
		全く信頼していない	29人	20人 (1.6%)	(n=1,110)	9人 (0.7%)	
3年生	820人	完全に信頼している	6人	5人 (0.6%)		1人 (0.1%)	
		かなり信頼している	86人	86人 (10.5%)			
		どちらかといえば信頼している	426人	420人 (51.2%)		6人 (0.7%)	
		あまり信頼していない	232人	195人 (23.8%)		37人 (4.5%)	
		ほとんど信頼していない	53人	39人 (4.8%)		14人 (1.7%)	
		全く信頼していない	17人	7人 (0.9%)	(n=752)	10人 (1.2%)	
4年生	635人	完全に信頼している	5人	5人 (0.8%)			
		かなり信頼している	51人	51人 (8.0%)			
		どちらかといえば信頼している	276人	249人 (39.2%)		27人 (4.3%)	
		あまり信頼していない	238人	168人 (26.5%)		70人 (11.0%)	
		ほとんど信頼していない	48人	24人 (3.8%)		24人 (3.8%)	
		全く信頼していない	17人	8人 (1.3%)	(n=505)	9人 (1.4%)	
				0%	25%	50%	
				0%	25%	50%	

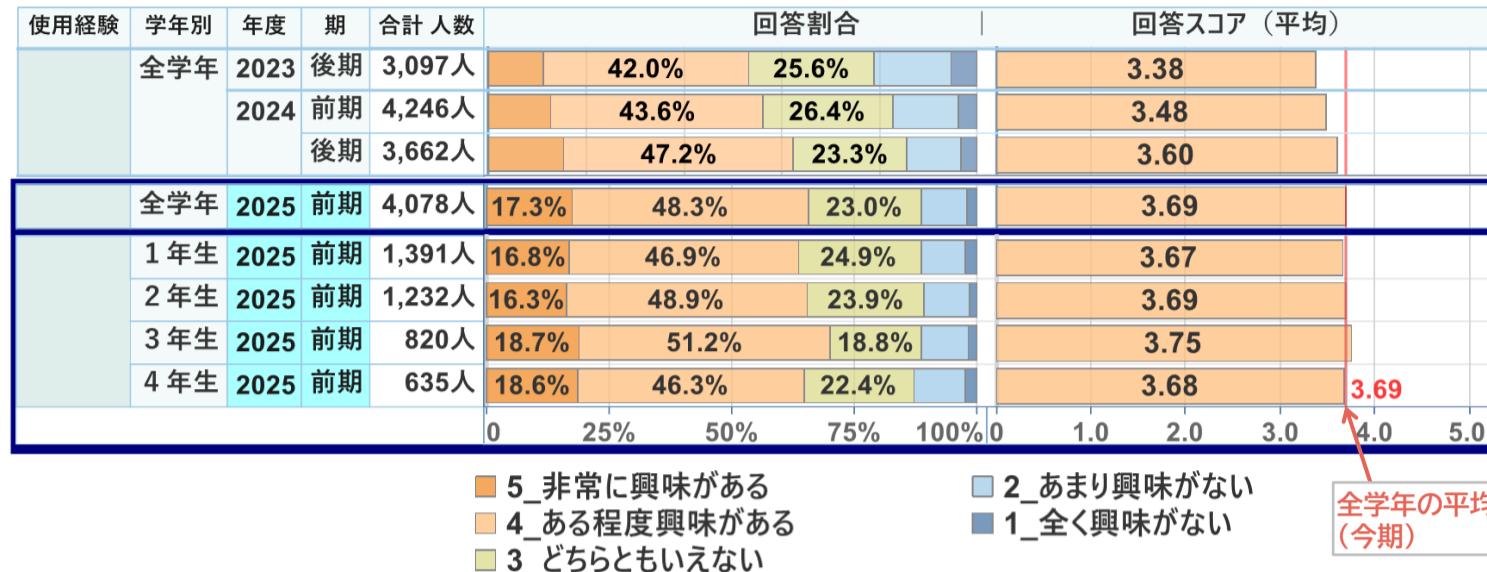
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 39 生成AIについて、もっと学びたいと思いますか

### ① 経年変化 (全学年)/学年別

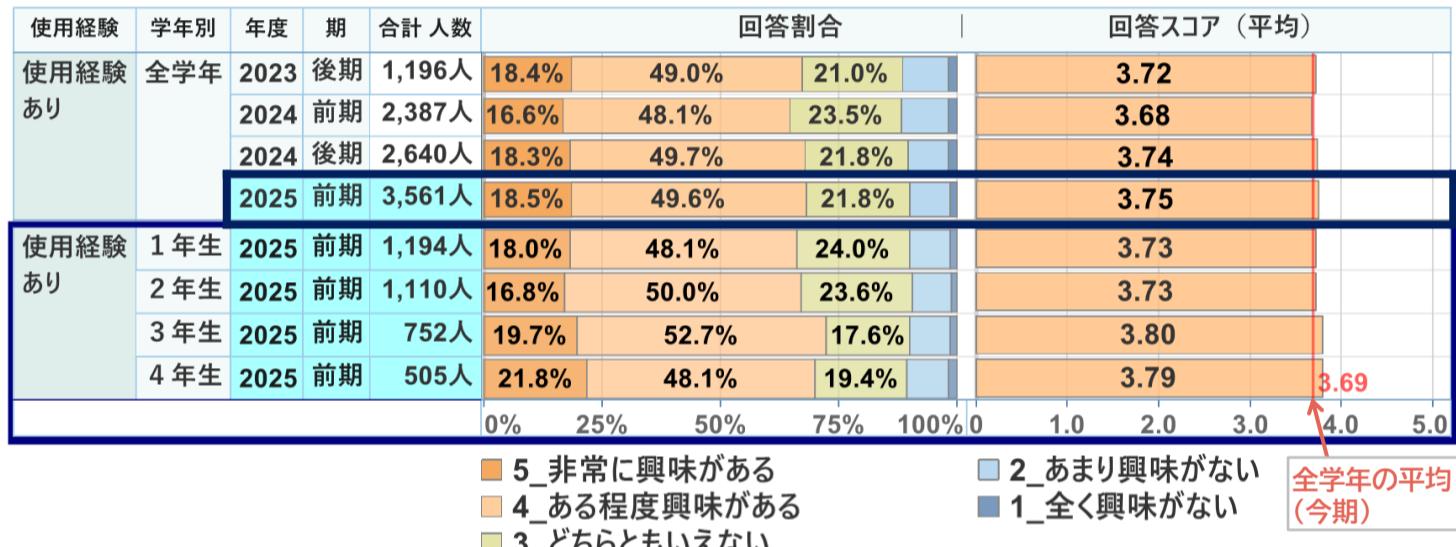


生成AIをもっと学びたい学生(回答スコア(平均))は、年々上昇傾向である

学年によって大きな差は見られなかった。

### ② 使用経験の有無別

#### ① 生成AIの使用経験がある学生



生成AIの使用経験有無により、生成AIの学習意欲に差が見られた

生成AIの使用経験がある学生の方が、生成AIについてより強い興味を持ち、学習意欲が高い。

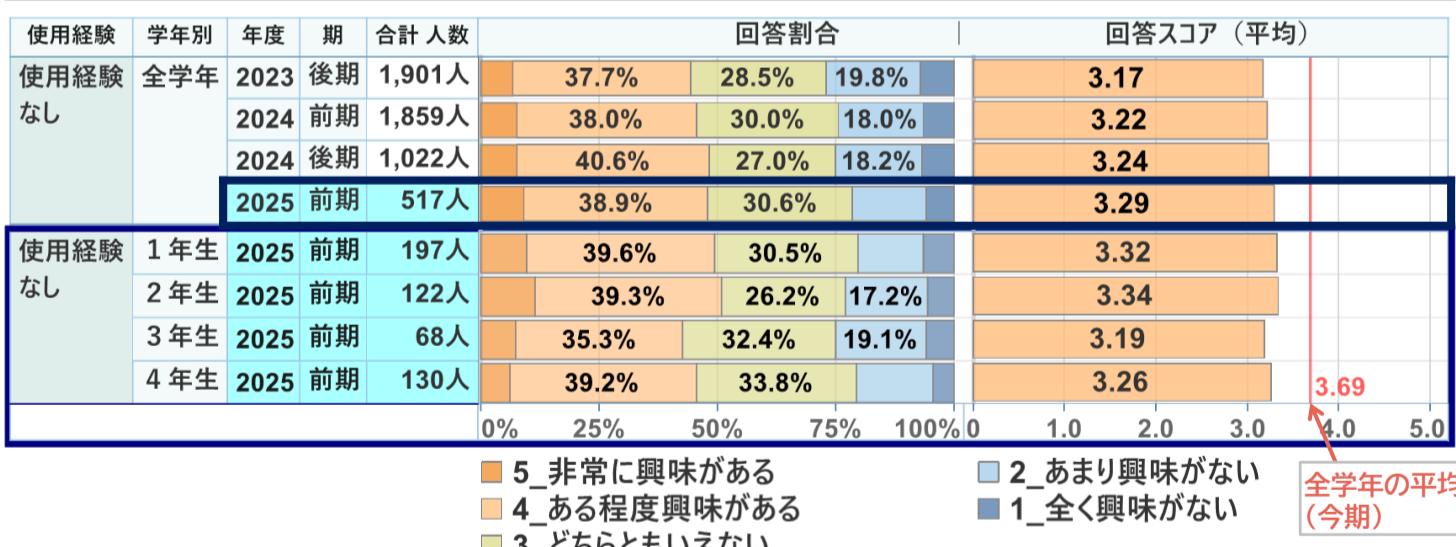
#### ① 生成AIの使用経験がある学生

- 生成AIを学びたい学生の割合(回答スコア(平均))に大きな差は見られなかった。
- 3年生と4年生の学習意欲が若干高い。

#### ② 生成AIの使用経験がない学生

- 生成AIを学びたい学生の割合(回答スコア(平均))は、年々増加傾向である。
- 1年生と2年生の学習意欲が若干高い。

#### ② 生成AIの使用経験がない学生



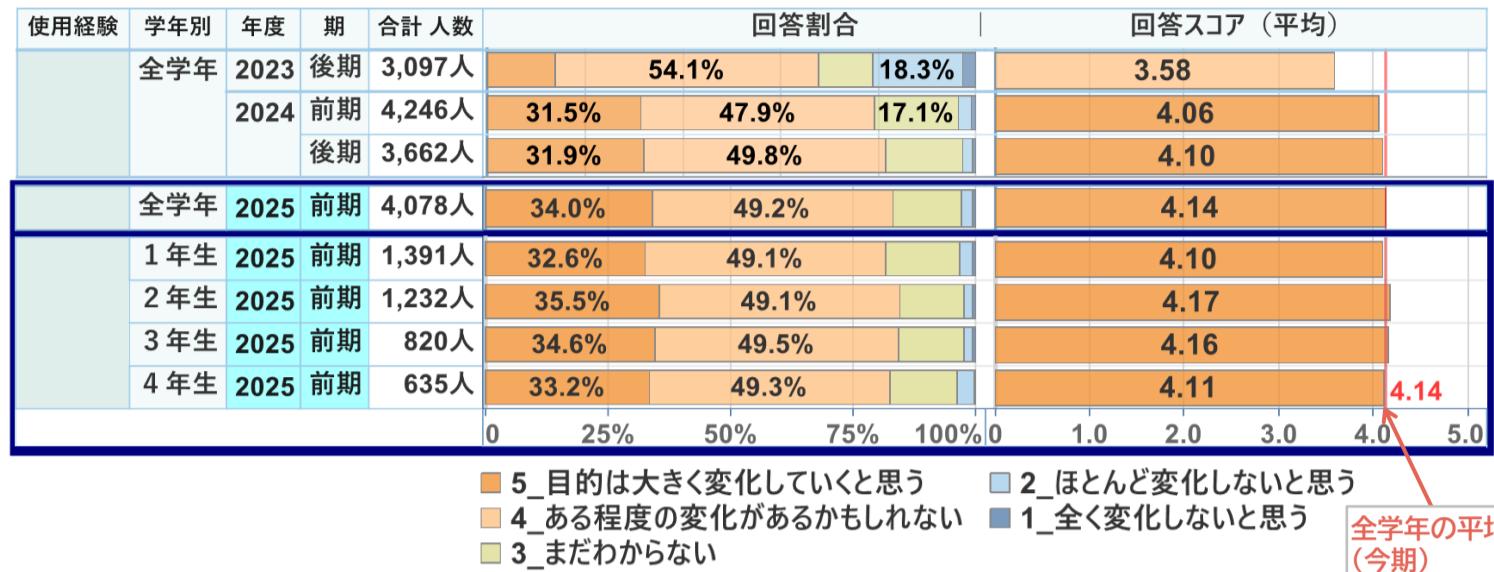
# 学修行動と学生生活に関する実態調査 結果報告

2025年度前期 (2025/9/8~10/3) 実施分

## ■ 9. 生成AIに関する調査

Q. 40 将来、生成AIを使用する目的は変化していくと思いますか

◆ 経年変化 (全学年) / 学年別



回答者の8割以上の学生が、  
生成AIを使用する目的は  
変化していくと回答した

使用経験や学年によっては、  
大きな差は見られなかった。

生成AIによる時代の変化を実感してい  
る学生が多いと考えられる。